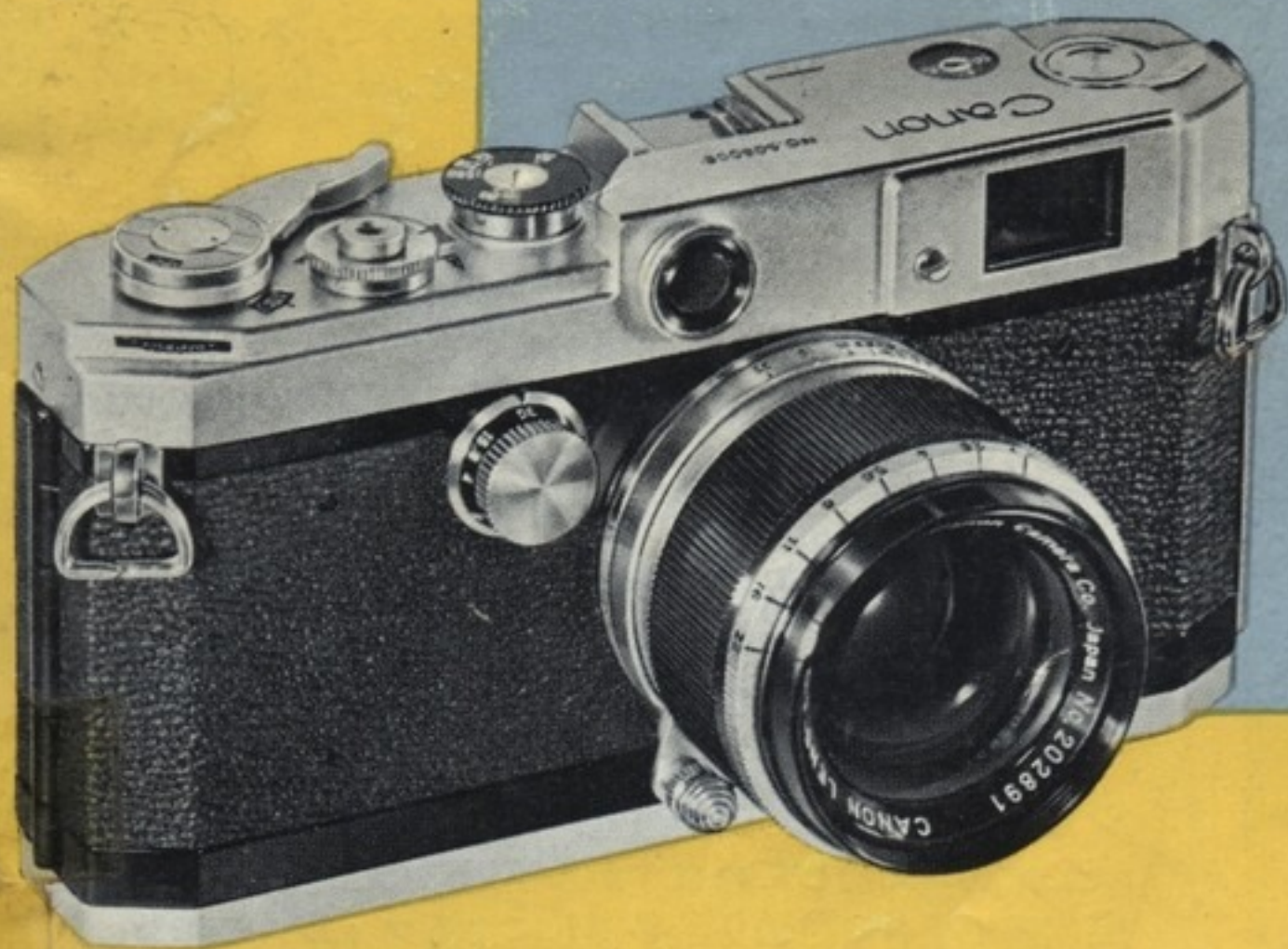


# Canon

# L<sub>2</sub>



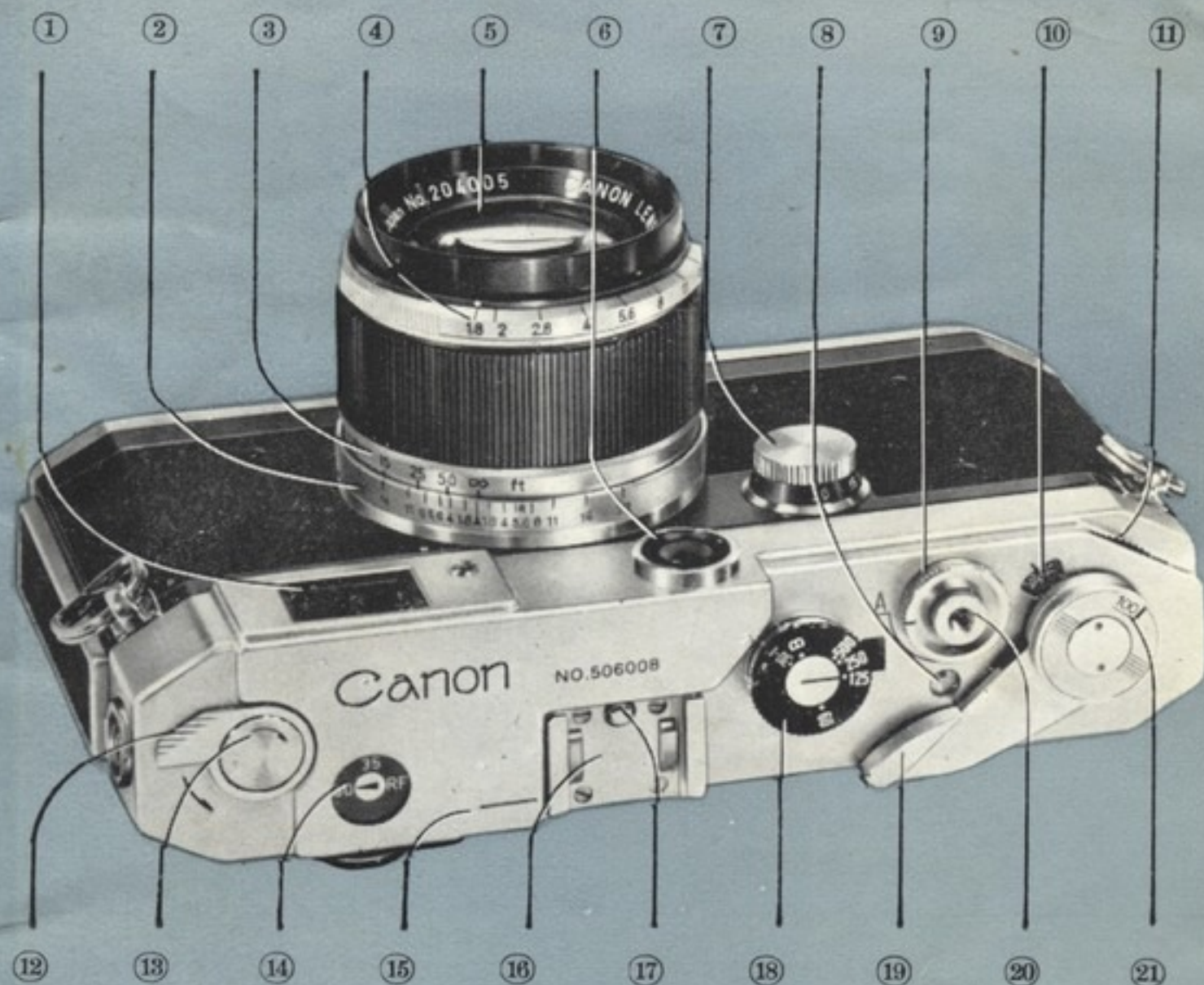
**35 mm CANON CAMERA**



キヤノンカメラ及びキヤノンレンズは高度に整備され合理化されたキヤノンの工場に於て、材料から製品に至るまで一貫作業によって製作されるもので、その間各工程毎に大小数十回に及ぶ機械的、光学的及び電氣的の検査を経、更に製品について一個毎に番号別カードを作つてシャッター検査、同調検査、撮影検査をはじめあらゆる検査項目の結果を記録し、これらの成績表を整理保存してあります。これによって自信を以て製品の御褒めができる基礎を得ると共に益々製品の改良向上に資している次第であります。

またキヤノンカメラは五カ年間品質保証付になっており、保証登録をされた方には普通の取り扱いによって生じた自然故障の場合、御買い上げ後五カ年間無償で修理並びに部品交換のサービスを申し上げます。

保証のサービスは保証証書の御提示によって行いますから、添付登録申込用紙によって御登録の上、保証証書を御受け取りおき下さい。なお保証期限の経過後若しくは保証適用外の故障については実費で御修理申し上げます。



- |                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| ① レンジ・ビュー<br>ファインダー窓…………… 9 | ⑫ 巻き戻しノブ<br>止めレバー…………… 21  |
| ② 被写界深度目盛…………… 12           | ⑬ 巻き戻しノブ…………… 21           |
| ③ 距離目盛…………… 12              | ⑭ ビューファインダー<br>指標…………… 10  |
| ④ 絞り目盛…………… 11              | ⑮ フィルム位置マーク…………… 12        |
| ⑤ キヤノンレンズ…………… 11, 24       | ⑯ アクセサリークリップ… 10           |
| ⑥ レンジファインダー窓… 9             | ⑰ パララックス矯正<br>連動ピン…………… 10 |
| ⑦ 低速シャッターダイヤル 8             | ⑱ 高速シャッターダイヤル 7            |
| ⑧ フィルム巻き戻し指標… 21            | ⑲ 巻き上げレバー…………… 5           |
| ⑨ 巻き戻しリング… 5, 21, 25        | ⑳ シャッターボタン…………… 6          |
| ⑩ フィルム枚数表示窓 6, 19           | ㉑ フィルムタイプ表示窓… 20           |
| ⑪ フィルム枚数合せ盤…………… 19         |                            |

## キヤノン L<sub>2</sub> の特長

キヤノン L<sub>2</sub> はキヤノン-VT の普及型として設計されたもので、巻き上げレバーを採用し、専用マガジンの使用が可能です。フラッシュ同調装置は FP パルプ専用になっています。そのほかはセルフタイマー及び高速シャッターの 1/1000 秒を除いた以外は最高級のキヤノン VT と変わりありません。

### 1. 新ファインダーシステムの採用と連動パララックス矯正機構

明るくなったレンジ・ビューファインダーは特許変倍方式により 35 mm レンズ用のファインダー距離計、50 mm レンズ用のファインダー距離計及び望遠距離計用の三段に切り換え使用され、望遠距離計の場合には、ファインダーは別にパララックス連動ファインダーを併用することによって、自動的にピント合わせに連動してパララックス矯正が行われるようになっていました。35 mm 及び 50 mm レンズの場合はそれぞれのファインダー距離計で、また長い焦点距離のレンズの場合は望遠距離計で何れも測距精度は充分ありますから、使用レンズに応じて三段のうち何れかにセットしておけば撮影都度の切り換えは不要です。35 mm 用ファインダー距離計の組み込みと、パララックス連動ファインダーによるパララックス自動矯正はキヤノンの独自のもので、スナップその他の撮影に大きな効果を発揮します。

### 2. 巻き上げレバー

扱い易い作動位置にあり、動程が適当で速写に便利です。

### 3. 専用マガジン

新設計の専用マガジンが付属していますから、日昼装填用パトローネ入りフィルムのほか、暗室装填用フィルムの使用も自由です。

### 4. フラッシュ同調装置

直結ソケットによりフラッシュユニットが直接取り付けられ、取り付けと同時に電路の接続ができます。同調装置は FP パルプ専用で 1/500~1/60 秒の各シャッタースピードに同調します。

### 5. シャッターボタンの安全装置

安全装置が完備していますから不用意な二重露出は勿論、フィルムの空送り、早押しによるフィルムの無駄、空押しによるチャンスを逃すことなどが防げます。

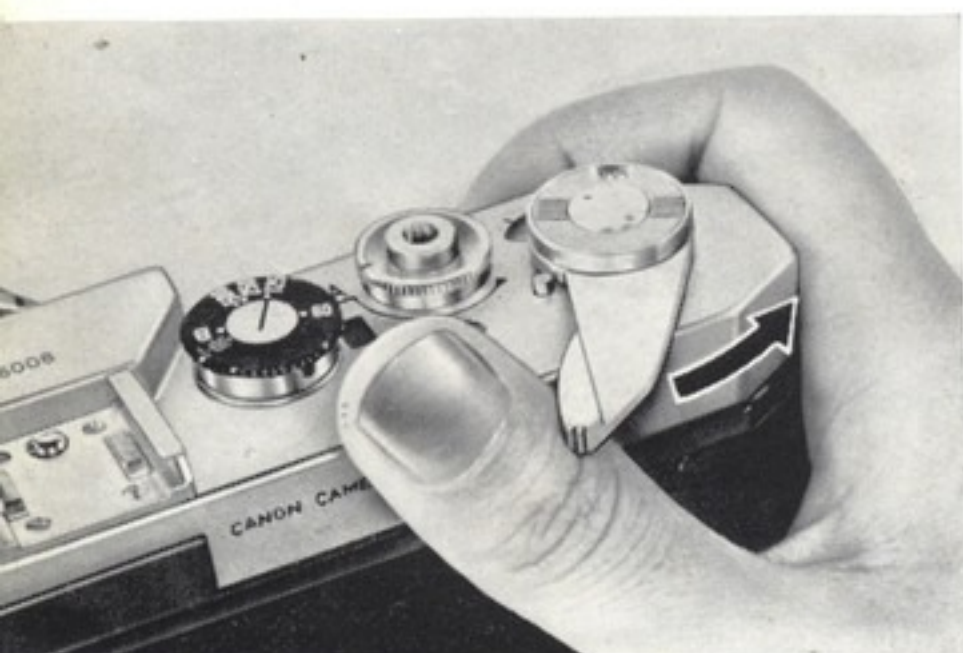


## 目 次

- フィルムとシャッターの巻き上げ…………… 5
- シャッターの調節…………… 7
- ピントの調節…………… 9
- レンズの操作…………… 11
- キヤノンの構え方…………… 15
- 撮影の手順…………… 16
- フィルム装填…………… 17
- フィルム巻き戻し…………… 21
- フラッシュ同調…………… 23
- レンズの交換…………… 24
- 二重露出…………… 25
- 簡易露出表…………… 26
- 専用マガジンとフィルムの詰め方…………… 27
- カメラの保存手入れ…………… 29

## フィルムとシャッターの巻き上げ

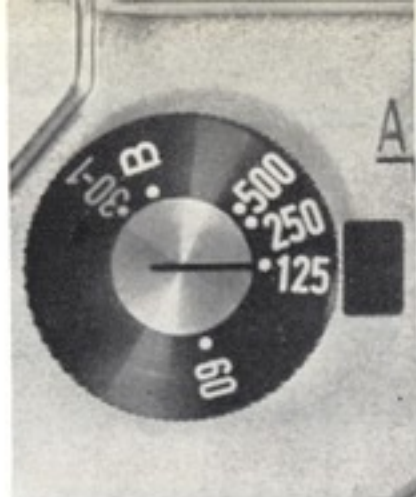
巻き上げレバーの端に指をかけて矢印の方向に止まるところまで回すとフィルムが1コマ分送られ、同時にシャッターが巻き上げられます。



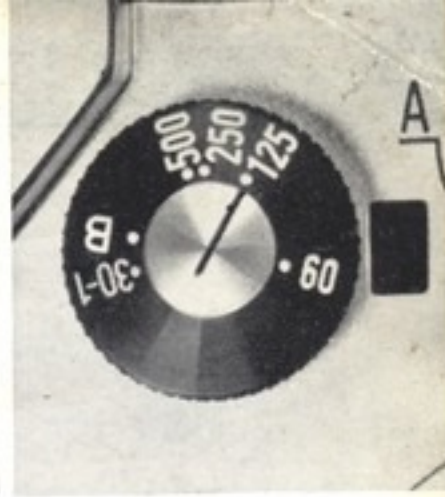
- 巻き上げは巻き戻しリングの指標がAの位置にないと完全に行われません。
- 巻き上げを済ませたレバーは自動的に戻りますが、畳み込み位置よりも少し手前で止まります。巻き上げはこの位置から行って差し支えありません。用のないときは元の位置に畳み込んでおきます。
- レバーは小刻みの繰り返し操作でも巻き上げられます。その際はレバーが動かなくなったときが巻き上げ完了です。



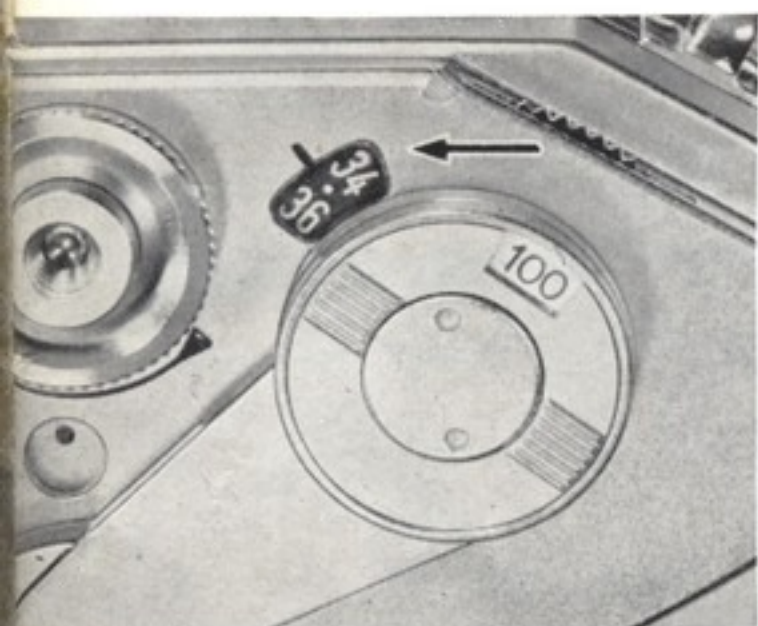
シャッターが巻き上げられている場合は、A図のようにダイヤルの指標が右を向き、シャッターが戻った場合は、B図のように上に向くので巻き上げ済みかどうかわかります。



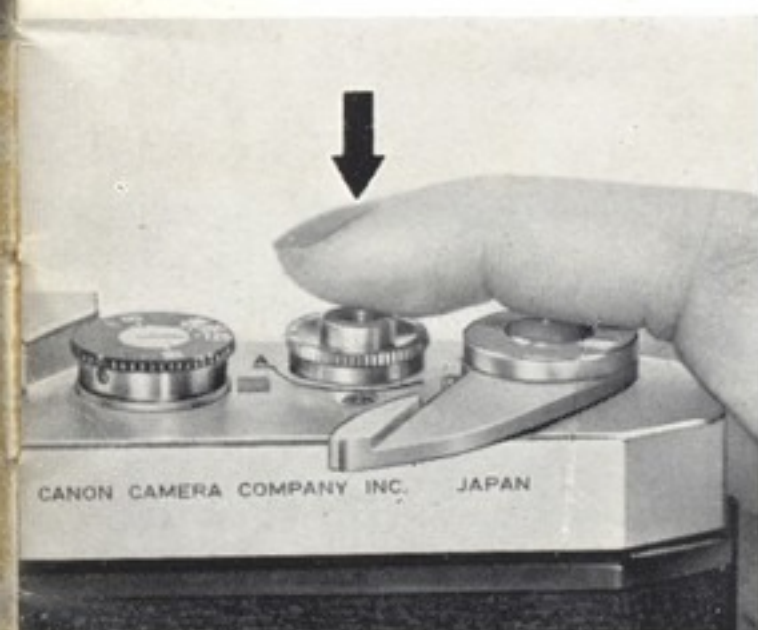
A



B



**フィルム枚数表示** フィルムが1コマ巻き上げられるごとに、フィルム枚数表示窓の表示が1目盛ずつ動いてフィルムの残りの枚数を示します。



**シャッターボタン** を押すとシャッターが作用した後、再び次の巻き上げができるようになります。

**シャッターボタンの安全装置** シャッターボタンには安全装置があって、巻き上げが完全にしてないと押しても動きません。これによって二重露出を防ぎまた早押しによるフィルムの無駄が防げます。

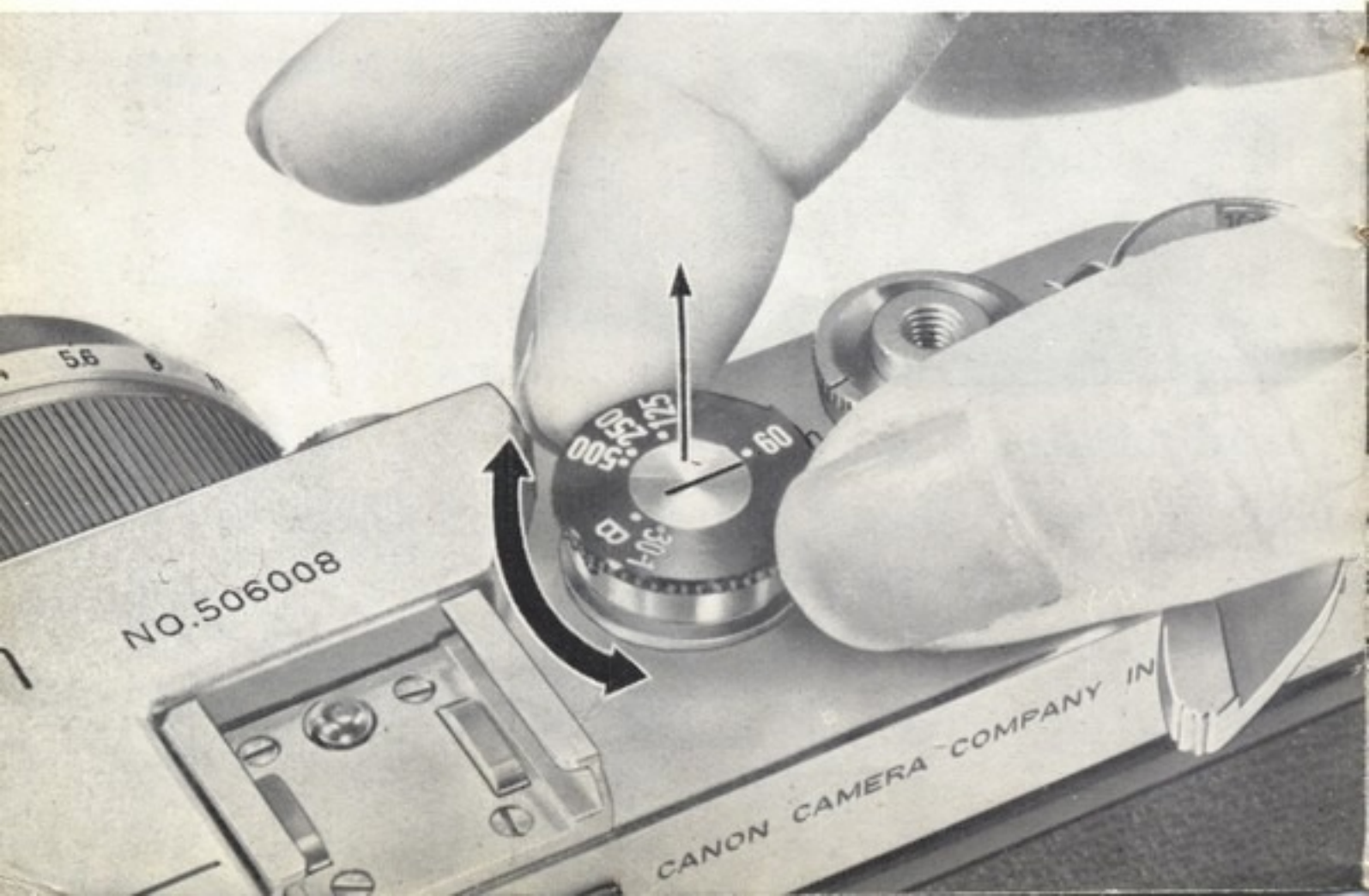
フィルム装填後第1回目の巻き上げのときだけは1回のレバー操作で巻き上げが完了しないこともありますから、念のため更に1回レバーを止るところまで巻き直して下さい。

## シャッターの調節

シャッターは 1, 1/2, 1/4, 1/8, 1/15, 1/30, 1/60, 1/125, 1/250, 1/500 秒の秒時及び B (バルブ), T (タイム) に調節することができます。調節の各秒時は順次二倍に変化する系列になっています。したがってレンズの絞りと関連してその調節をするのに便利です。

ダイヤルの数字は何分の一秒という場合の分母を示します。

高速シャッターダイヤルは 1/30 秒より早い秒時及び B の調節をするもので、その調節をするには、ダイヤルを僅かに引き上げて回し、必要な目盛を指標に合わせて、元の位置に落ち込ませます。目盛の中間位置は使用できません。高速シャッターを用いる場合は低速シャッターダイヤルは 30 の赤目盛にセットしておきます。



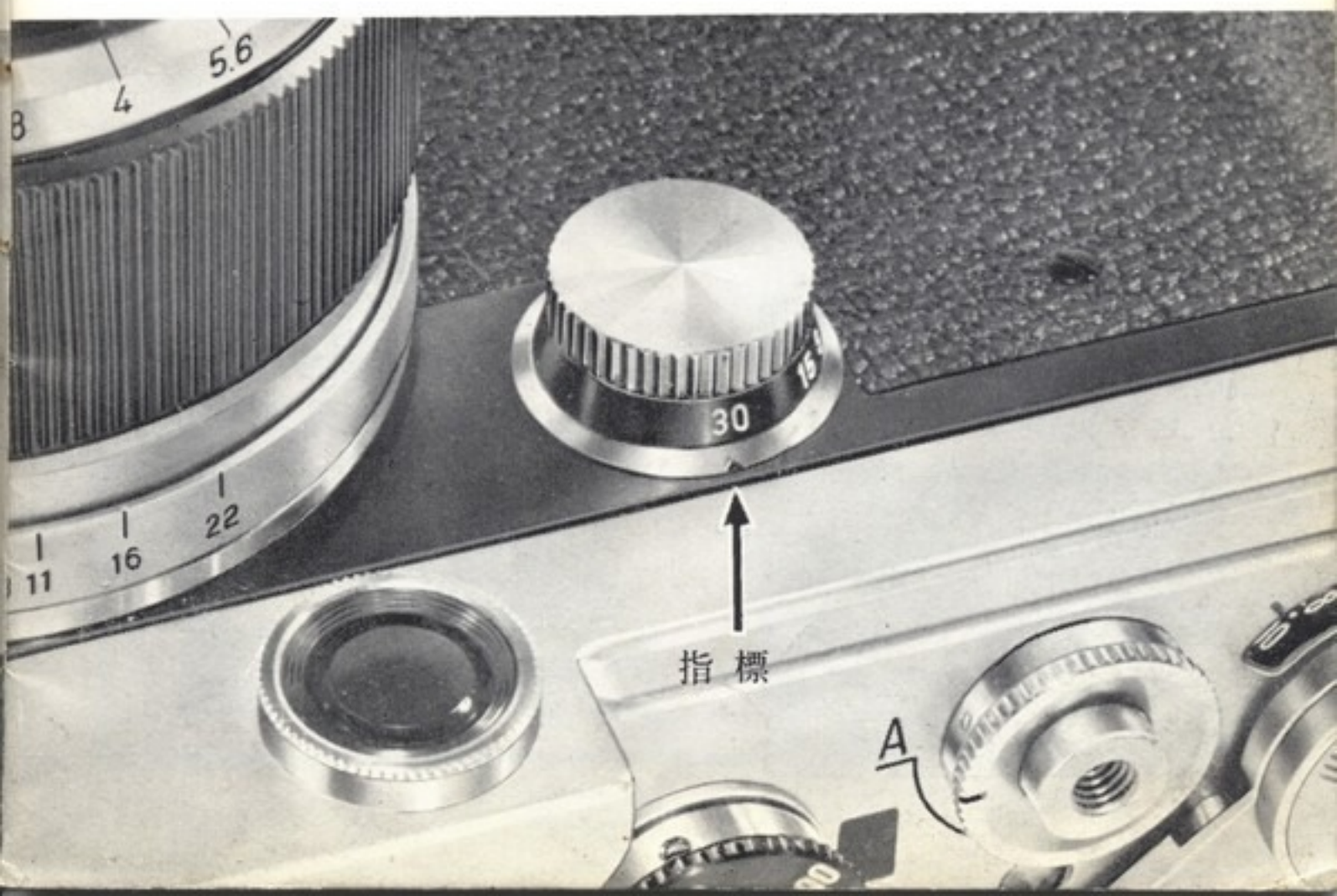


低速シャッターダイヤルは1/15~1秒及びTの調節をするもので、これを回して指標を必要な目盛に合せます。低速シャッターを用いる場合、高速シャッターダイヤルは必ず30-1の赤目盛にセットしておかねばなりません。

**B (バルブ)** 高速シャッターダイヤルをBに合せたとき(低速シャッターダイヤルは30)は、シャッターボタンを押している間、シャッターが開いていますから1秒以上の露出に用います。

**T (タイム)** 低速シャッターダイヤルをTに合せて(高速シャッターダイヤルは30-1) ボタンを押すとシャッターが開き放しとなりますから、所望の露出後、低速シャッターダイヤルを1秒の目盛の方へ静かに回してシャッターを閉じます。レンズシャッターと違ってボタンを再度押しても閉じません。

低速シャッターダイヤルは1/8-1秒の間ならば目盛の間でも使えないことはありませんが、クリックストップもかかりませんから、おすすめできません。



## ピントの調節

レンズには無限遠にピントを合せた位置でレンズを止めるストッパーが付いていますから、これを押して止めを外しながら調節胴を回します。調節胴を回すとレンズが進退し、レンジファインダーに連動してピントの調節ができます。レンズの種類によってはストッパーのないものもあり、その場合は直ちに調節胴を回します。



レンジ・ビューファインダー  
レンジ・ビューファインダー  
覗き窓を覗きながらピント調節をすると、四角な視野の中央やや明るい円形輪廓内で、被写体の二つの像が重なったり離れたりします。二重像が完全に合致したとき、レンズはその被写体にピントが合います。四角な視野はその際フィルムに写し込むことのできる画界を示します。



ピントが外れているとき



ピントが合っているとき

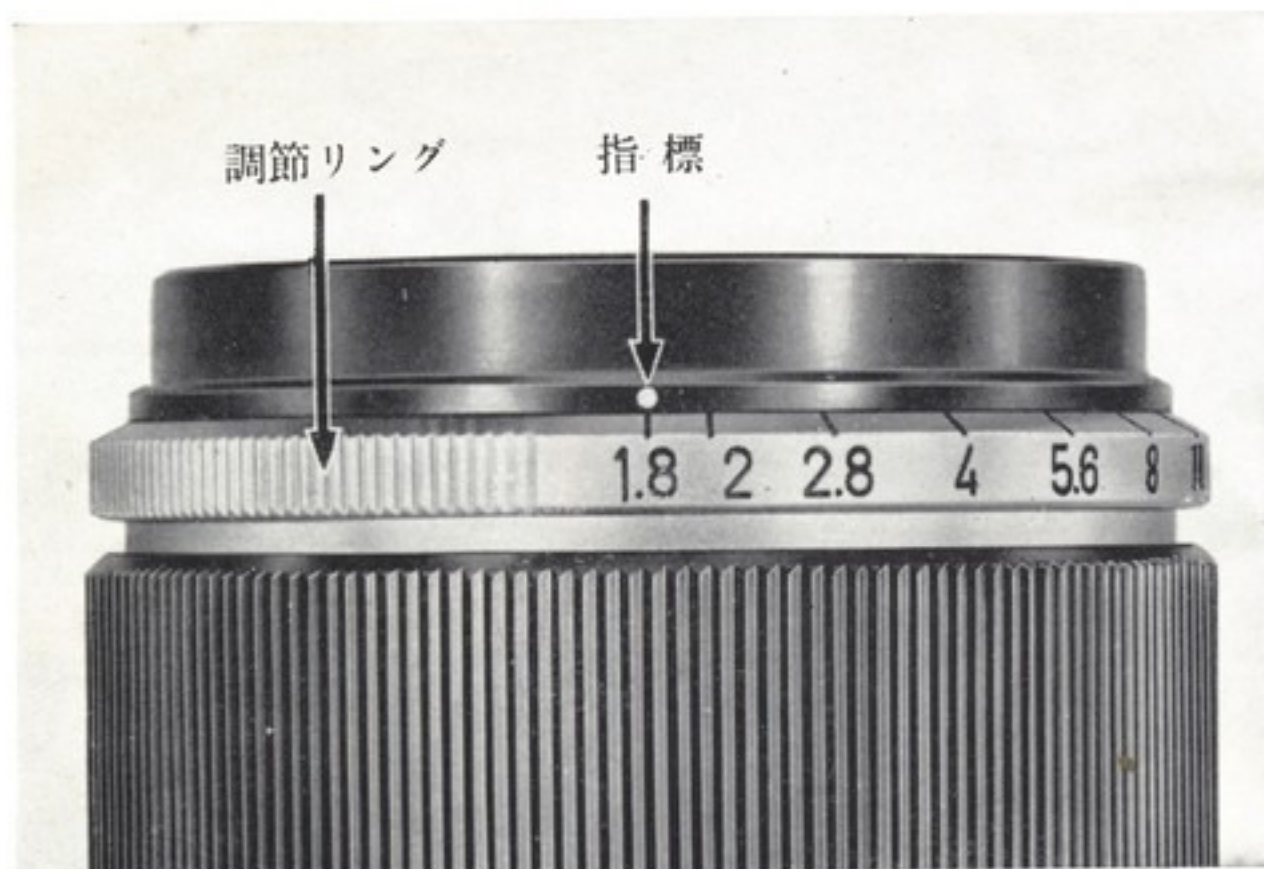
二重像を合わせるには主被写体の像が、中央の円形輪廓の中心に見えるようにします。特に近距離被写体に対しては大切です。

レンジ・ビューファインダー セレクターを右または左に回すと像の倍率が変り、指標が 35, 50, RF の何れかを示します。何れの場合でもピント調節はできますが、35 または 50 のときはピント合せのほか四角の視界全体がそれぞれ 35 mm レンズまたは 50 mm レンズ用の画界を示し、また RF のときはレンジファインダー専用になります。

35或いは50の場合でもレンジファインダーはそれぞれのレンズに対して十分な精度を持っていますから使用レンズに応じて一度セレクターをセットしておけば同一レンズには撮影の都度これを切り換える手数は不要です



パララックス矯正連動ピン  
レンジ・ファインダーには  
パララックス矯正ピンが連  
動していて、アクセサリ  
クリップにパララックス連  
動ファインダーを取り付け  
ておくと、自動的にそのパ  
ララックスの矯正ができま  
す。



**レンズの絞り目盛** レンズの絞りはフィルムに達する光の量の調節や被写界深度の調節をするもので、調節リングを回して適当な目盛を指標に合せます。

絞りはその数値が大きくなるに従って、レンズが暗くなり、目盛の一段毎に、明るさが半減するようになっています。したがって絞りを一目盛小さくしたときは露出時間を倍にし、二目盛小さくしたときは露出時間を4倍にしなければなりません。絞りは目盛の間も用いることができます。レンズによっては最大口径の絞り値だけは、次段の絞り値との間に、必ずしも明るさが半減する関係になっていないものがあります。シャッタースピードと絞り目盛とを決めるには、露出計や露出表を用いると便利です。

絞り値	1.8	2.0	2.8	(3.5)	4.0	5.6	8.0	11	16
露出比率	0.8	1	2	(3)	4	8	16	32	64

**等間隔目盛** 絞りの目盛は調節リングの回転角が等間隔になるように目盛ってありますから、絞り目盛の間も用いる際でも容易に適正な調節ができます。

**距離目盛** 目盛はピントを合せた被写体とフィルム面との距離を示すものです。キヤノンではレンジ・ビューファインダーでピントを合せますから、普通の撮影では、必ずしも必要はありませんが、次に述べる被写界深度を知る場合や赤外撮影の場合に必要なになります。

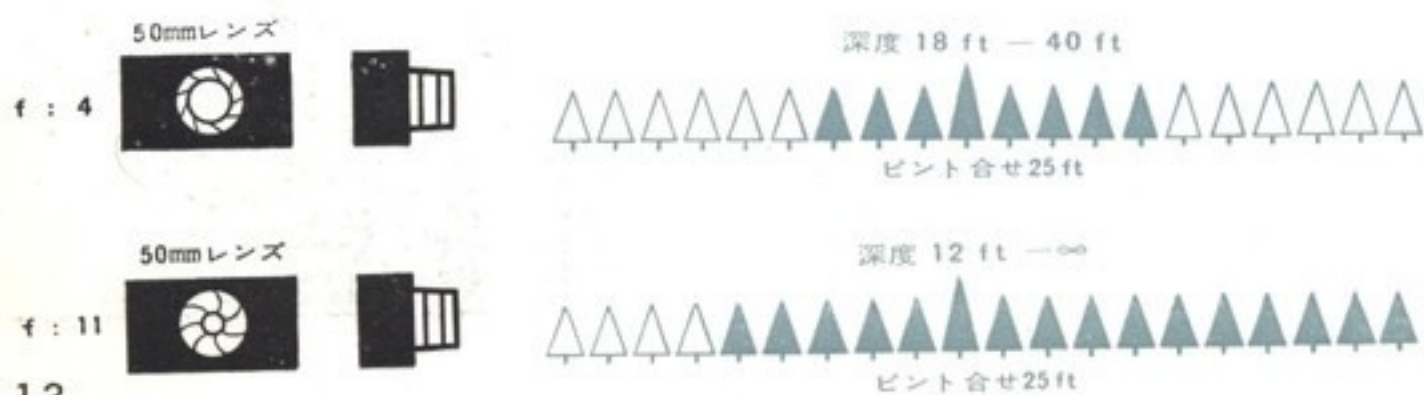
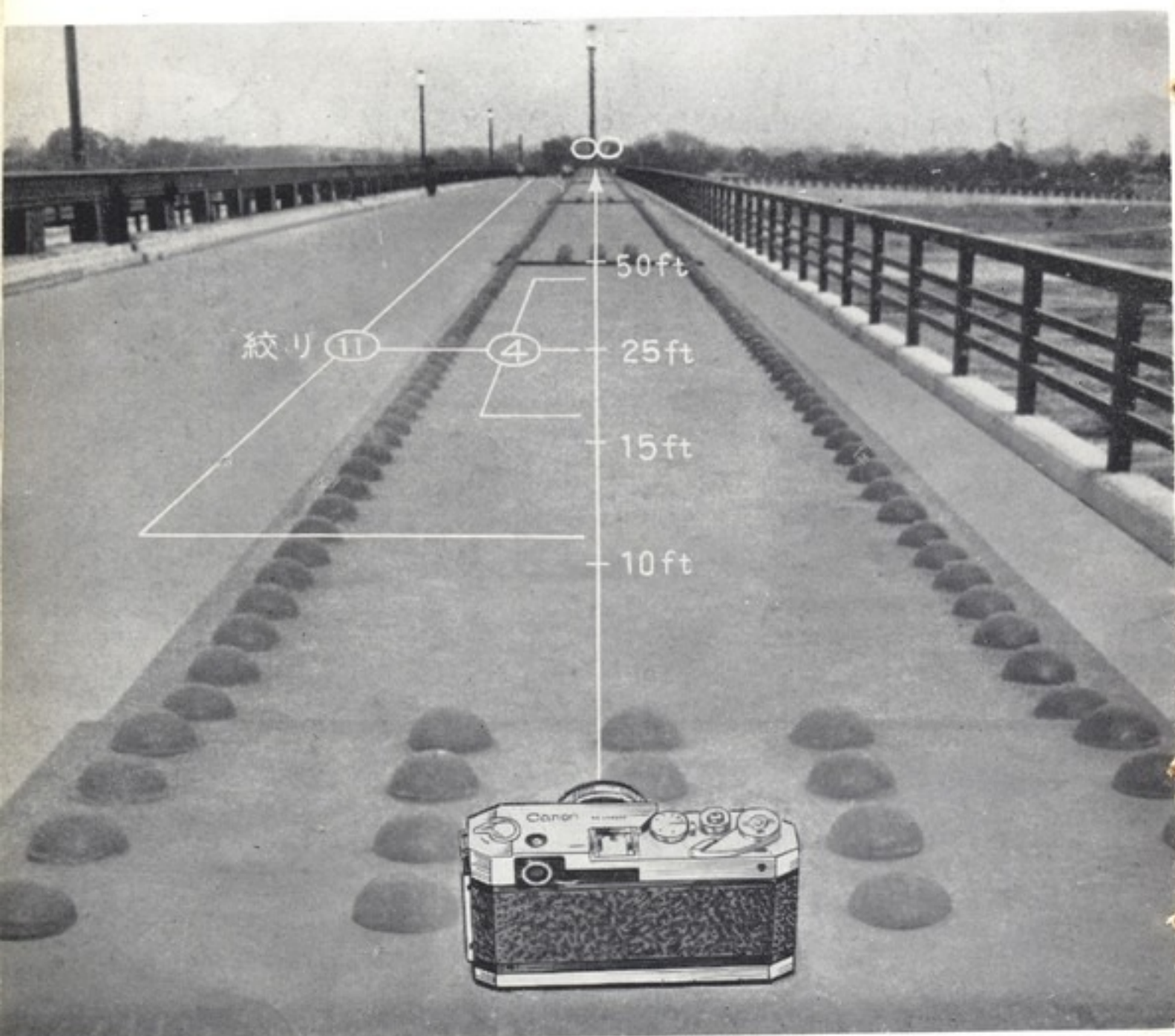
特殊の場合レンジ・ビューファインダーによらないでピントを合わせるには、被写体までの距離を実測して、距離目盛を距離指標に合せます。その際の実測距離はフィルム面に一致した位置にあるフィルム位置マークから測ります。

**被写界深度目盛** 一つの被写体にピントを合せたとき、その前後でなお鮮明に写る範囲を示すもので、距離目盛と関連しています。これを使用するには、例えば 50 mm レンズで 25 ft の距離にある被写体にピントを合せたとき、 $f:4$  の絞りを使うとすれば、距離指標の両側で一对の 4 の目盛の指す距離、即ち約 18 ft と 40 ft とを読みとります。この間にあるものは鮮明に写るわけです。同様にして  $f:11$  に絞れば 12 ft から  $\infty$  まで鮮明に写ることがわかります。



被写界深度はレンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど深くなり、逆の場合ほど浅くなるものです。

シャッターダイヤルは目盛の中間が使えませんが、絞りは目盛の中間も連続的に利用できますから、露出を厳格に考える場合は、シャッター速度を先きに決め、これに応じて絞りを加減することが最も合理的となります。



赤外指標（赤外マーク）赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれるので、修正を要します。レンジ・ビューファインダーで普通にピントを合せた後、先ず距離指標で距離目盛を読み、その読み目盛を赤外指標まで移動させます。例えばピントを合せた結果が距離目盛で25だったとすれば、この25の目盛をRの位置までずらせます。目測や巻尺で距離を合せる場合は、距離指標の代りに赤外指標を基準にして距離目盛を合せます。



赤外指標は、 $8000\text{\AA}$  程度の波長に最大感度を持つフィルムと赤外フィルター（例えばコダック IR 135 フィルムとラッテン 87 フィルター）とを用いる場合を標準にして目盛ってあります。赤末部を使用する場合、例えばプラス X、或いは一般のパンクロフィルムにラッテン 25 程度の赤色フィルターを添用する際には、修正移動を  $1/3$  位とするのが適当です。

レンズの泡は明るさを、何百分の一か、何千分の一か減らすこととなりますが、この程度では撮影上全然問題になりませんし、また像の鮮鋭度にも何等影響ありません。高級レンズに使われる特殊ガラスは、気泡の残存を免かれませぬので、高級レンズの製造上止むをえないものとして御了承願います。

## キヤノンの構え方

撮影の際、カメラを確実に構えることは鮮鋭なピントの写真をとるのに最も大切なことです。カメラは縦位置または横位置の状況に従って図の何れかのように持ち、ファインダーを覗いてピント合せをし、更に撮影範囲を決めた後、静かにシャッターを切ります。その際特に次のことが大切です。



1. 両掌はつとめて深くカメラをにぎり込むこと。
2. カメラを頬あるいは額に当てて固定すること。
3. 横位置のときは両肘、縦位置のときは少くとも一方の肘をピタリ体に付けること。

- シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります。
- 拇指先がシャッターダイヤルに触れないように注意して下さい。
- T.B. は勿論のこと、1/30 秒よりもおそいシャッターでは三脚とケーブルリリースを併用する方が安全です。
- レンズフードは写角外の有害な光線を遮って、よい写真をとるために必要です。

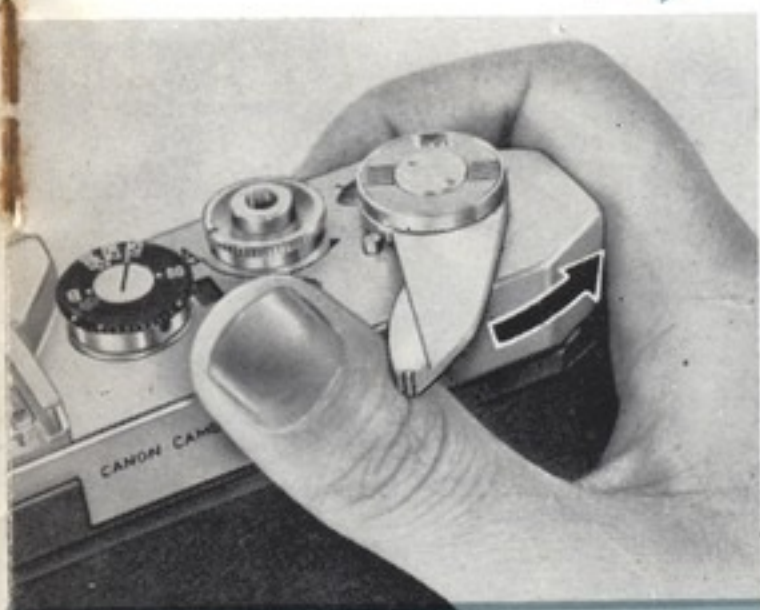




# 撮影の手順



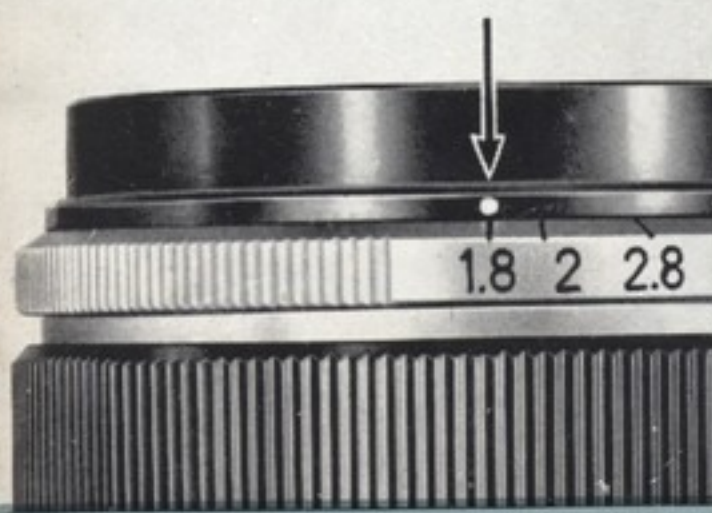
1. レンズキャップを取り外す



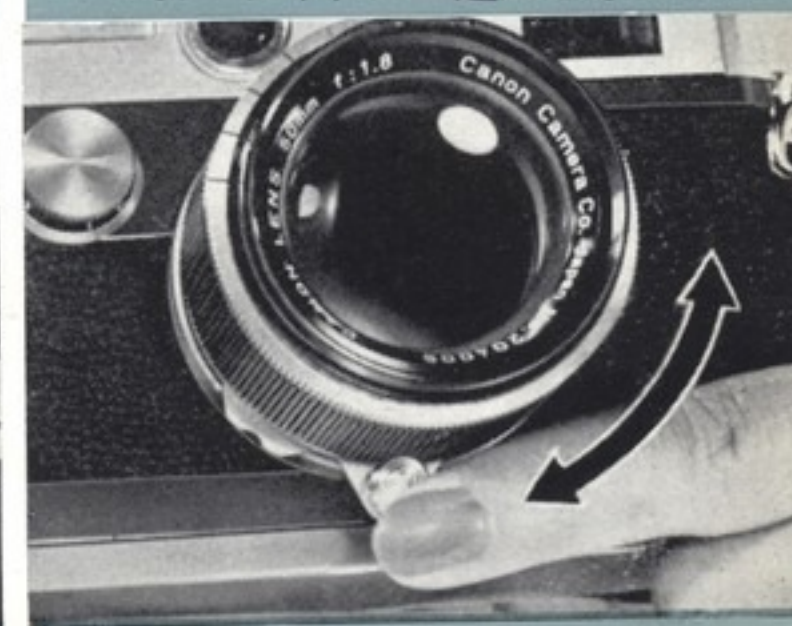
2. 巻き上げをする



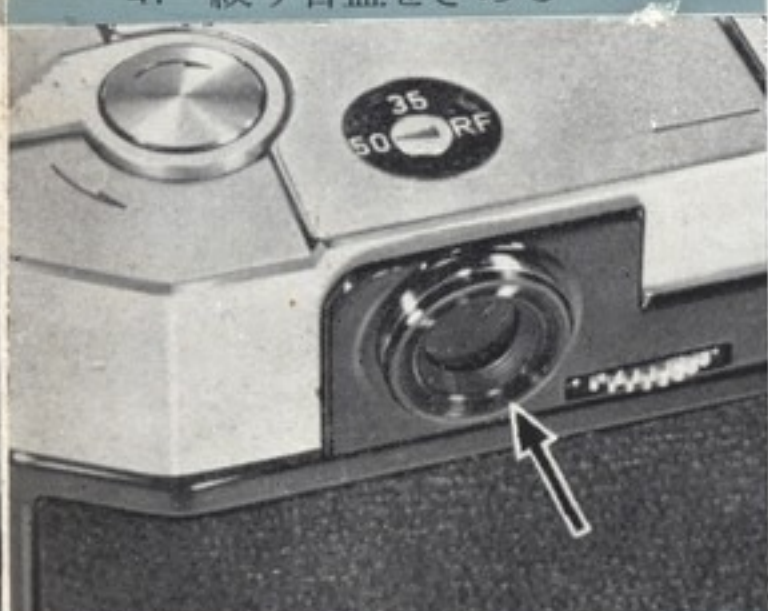
3. シャッター速度をきめる



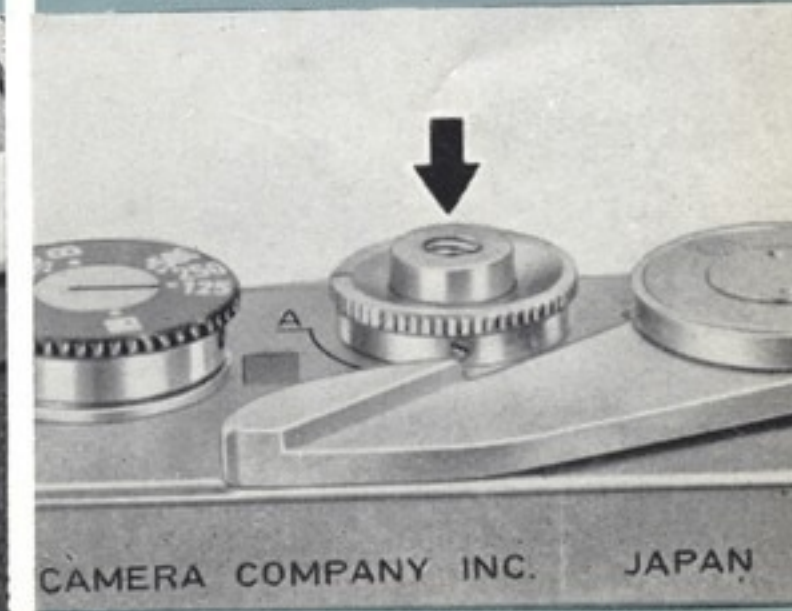
4. 絞り目盛をきめる



5. 被写体にピントを合せる



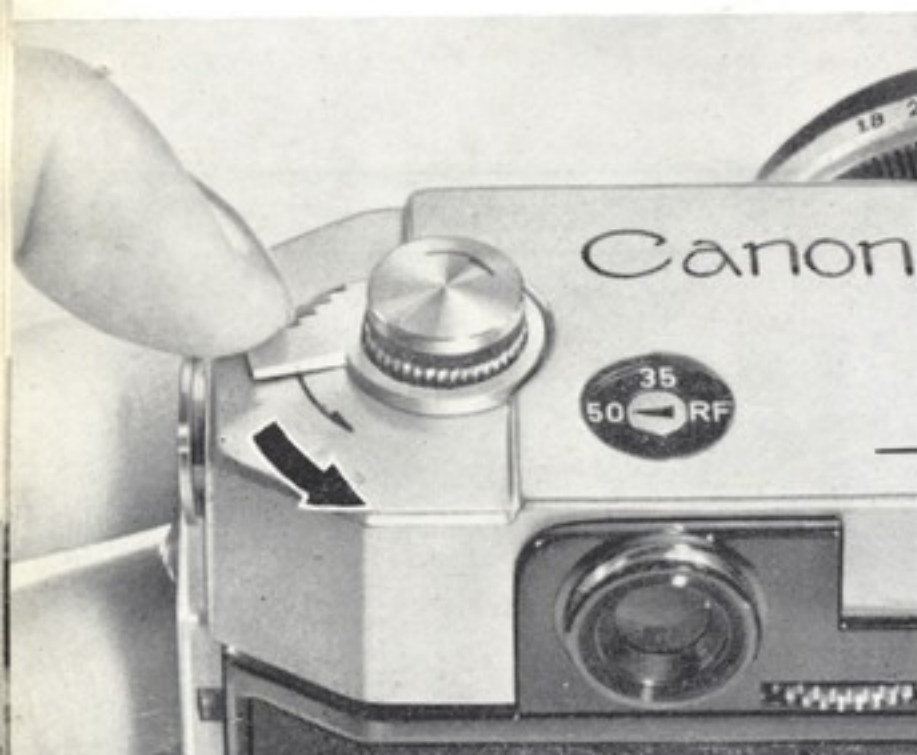
6. 構図をきめる



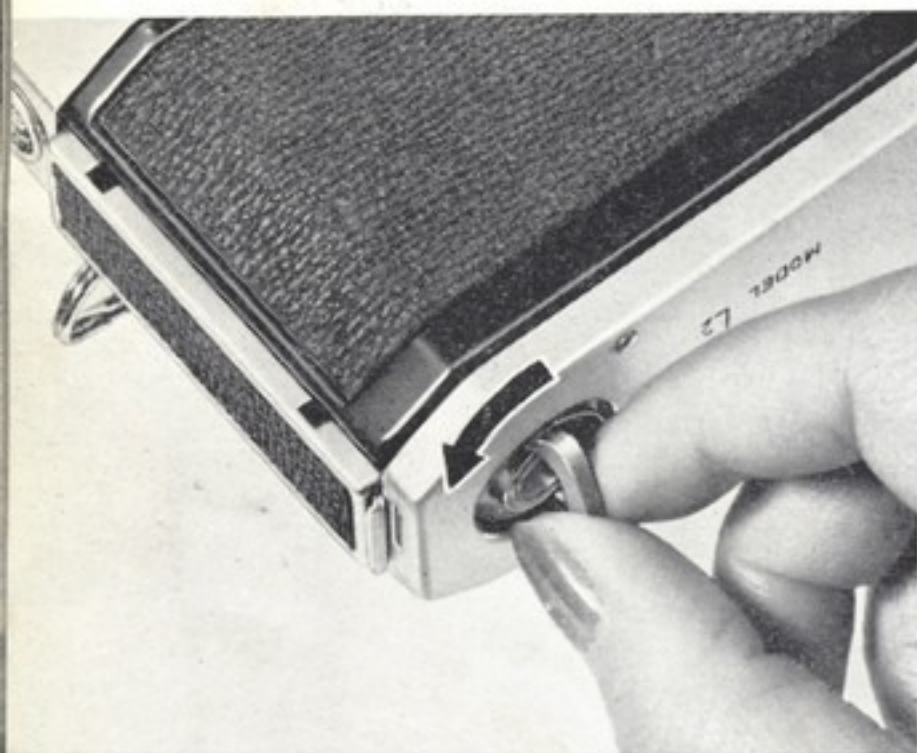
7. シャッターボタンを押す

## フィルムの装填

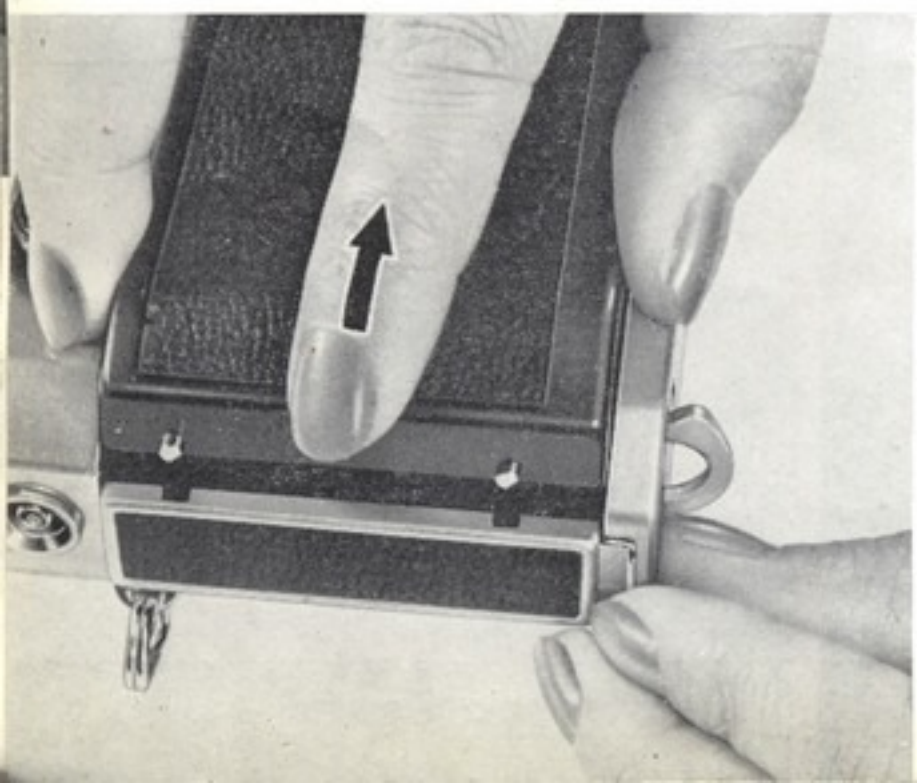
フィルムは市販の 35 mm 日昼装填用カートリッジ (パトローネ) 入りでも、キヤノン専用マガジンに入れたものでも同じに用いられます。旧型マガジンは用いられません。



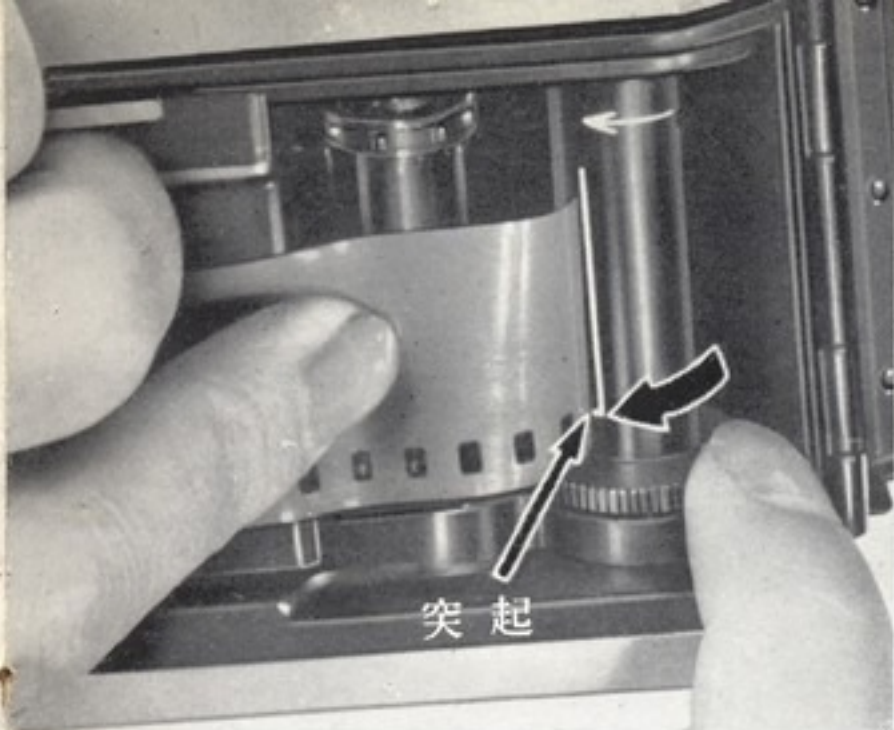
巻き戻しノブの止めレバーを矢印方向に押し、巻き戻しノブを浮き上げさせます。



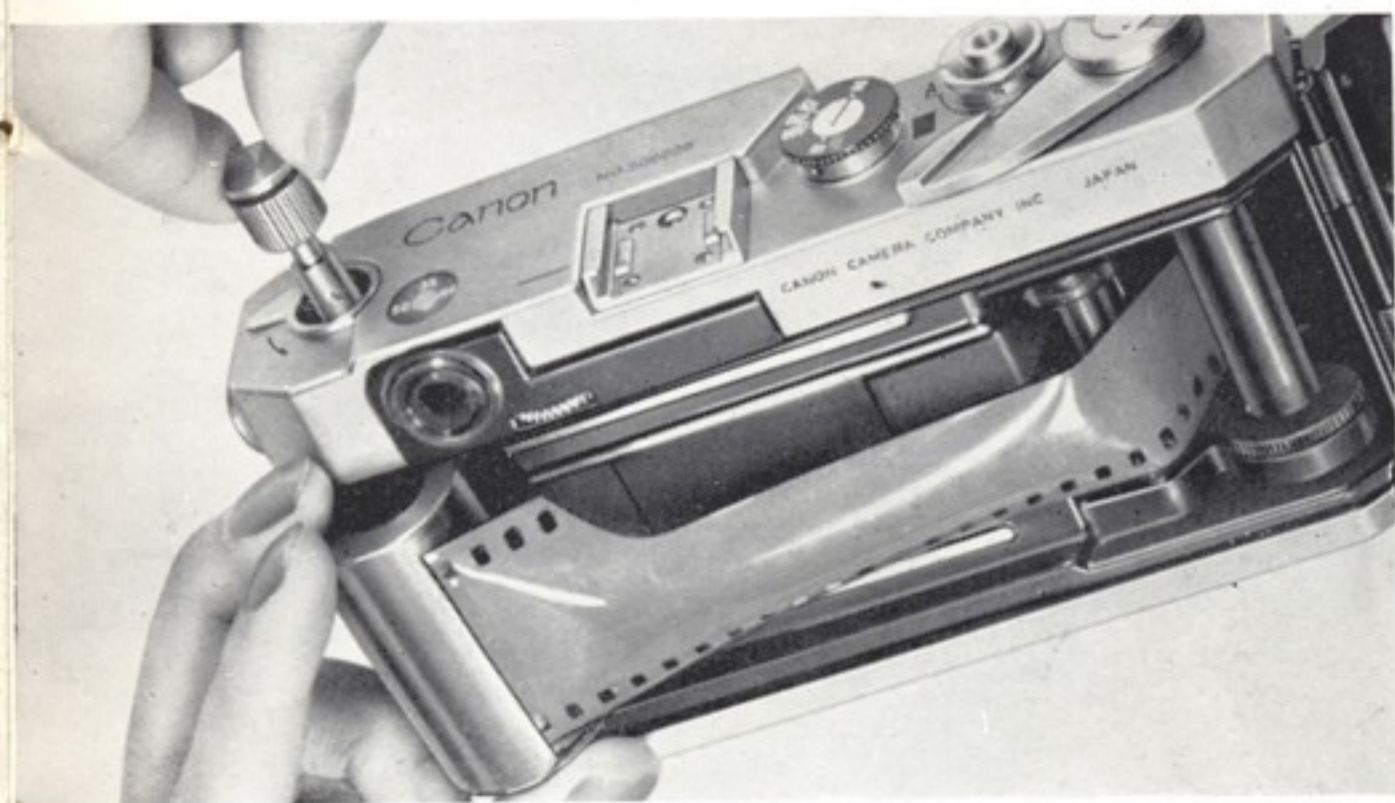
底部のマガジン開閉つまみを引き起して左まわしに半回転します。



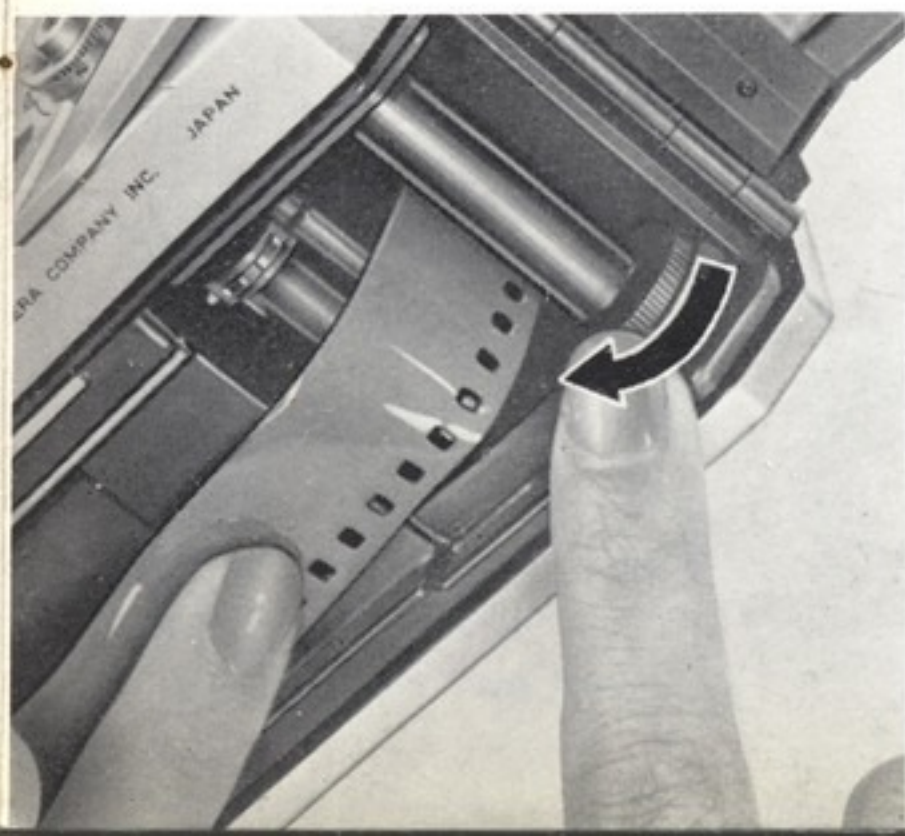
裏蓋止め金を引き、裏蓋に指をかけて開きます。



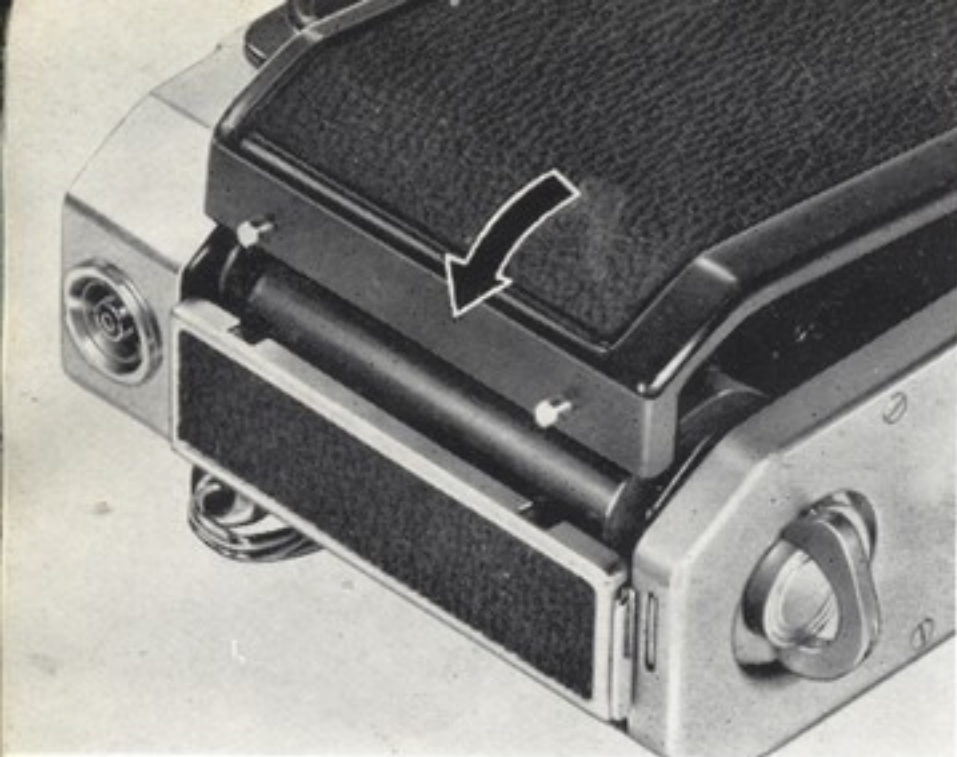
フィルム端を巻き取り  
スプールの溝に充分差  
し込み、スプールの鍔  
を矢印の方向に少し回  
しながら溝際の突起を  
フィルムの孔の一つに  
かけます。



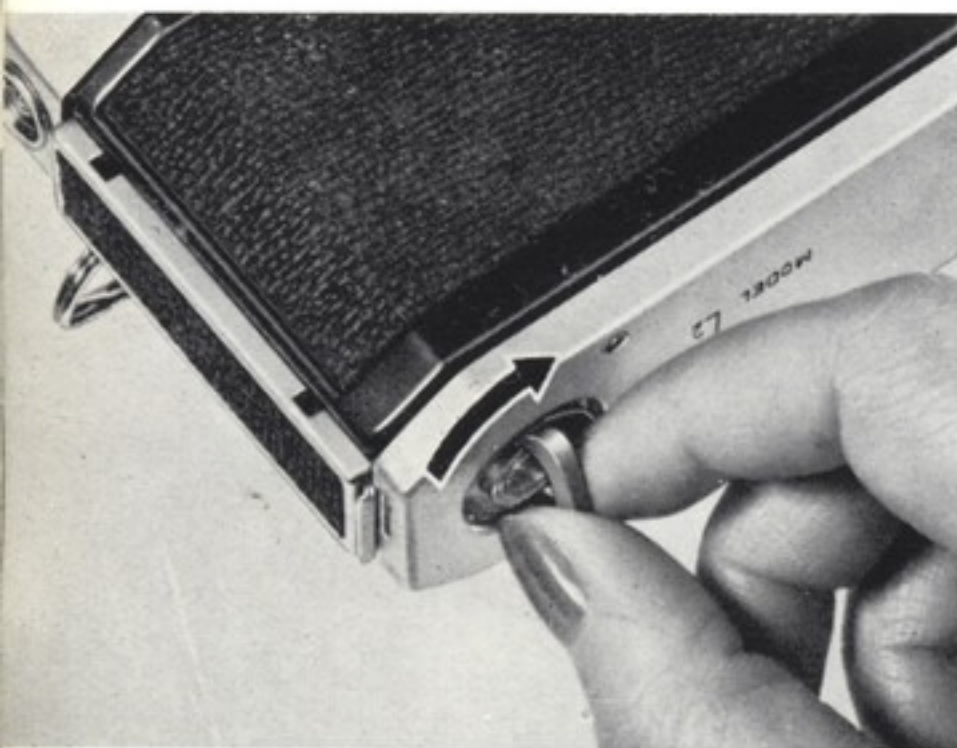
巻き戻しノブを充分に引き上げておいて、カートリ  
ッジまたはマガジンを入れた後、巻き戻しノブを押し  
込みます。



その際フィルムの孔を  
スプロケットの歯に完  
全にかけ、またフィル  
ムにたるみがあれば巻  
き戻しノブを矢印方向  
に回してたるみを取っ  
ておきます。

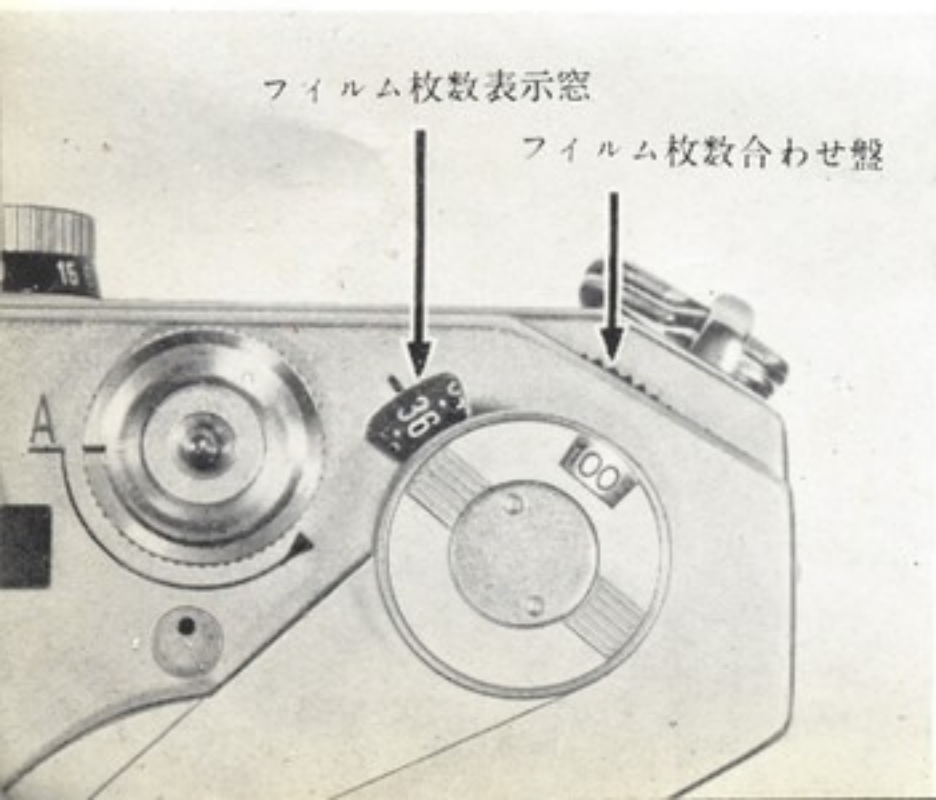


巻き戻しノブの押し込みをしたまま裏蓋を閉じます。



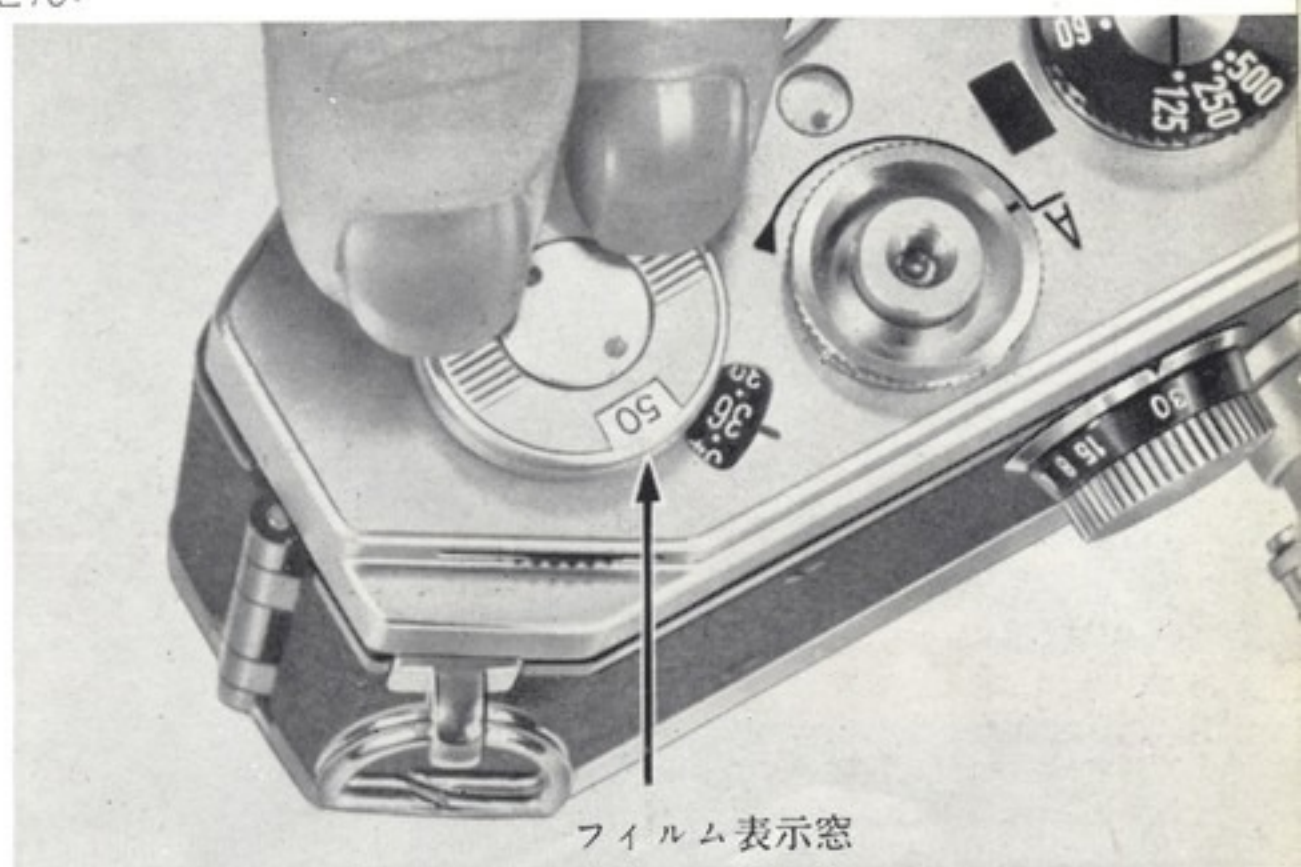
最後にマガジン開閉つまみを右回しに回して元通りに収めます。裏蓋を閉じる前にマガジン開閉つまみを回してはなりません。

レンズキャップを被せたまま、二枚だけ空撮しをします。次に指先を枚数合せ盤の縁にかけて回しながら、枚数表示を装填フィルムの全枚数に合せます。次に巻き上げをすると一枚目の撮影準備ができます。



## フィルム装填良否の確かめ方

巻き取りをするごとに、巻き戻しノブは矢印と逆の方向に回ります。このことで、フィルムが正しく巻き取られているか、否かがわかりますから、巻き上げの際は、いつもこれを見るようにおすすすめします。もし回らなければ、フィルムの端がスプールから抜け出しているか、フィルムの孔がスプロケットから外れていることとなります。その場合は、次頁のフィルム巻き戻しの要領で、フィルムを一旦取り出して装填し直さなければなりません。



## フィルムタイプ表示窓

使用フィルムの感度や種類を表示しておくもので、円盤の上面にある刻みの部分を指先で押しながら回すと小窓に表示が現われます。黒字は普通フィルム用で ASA 感光度，青点，赤点はカラーフィルム表示で，青点は白昼光カラーフィルム用，赤点はタングステン光カラーフィルム用です。

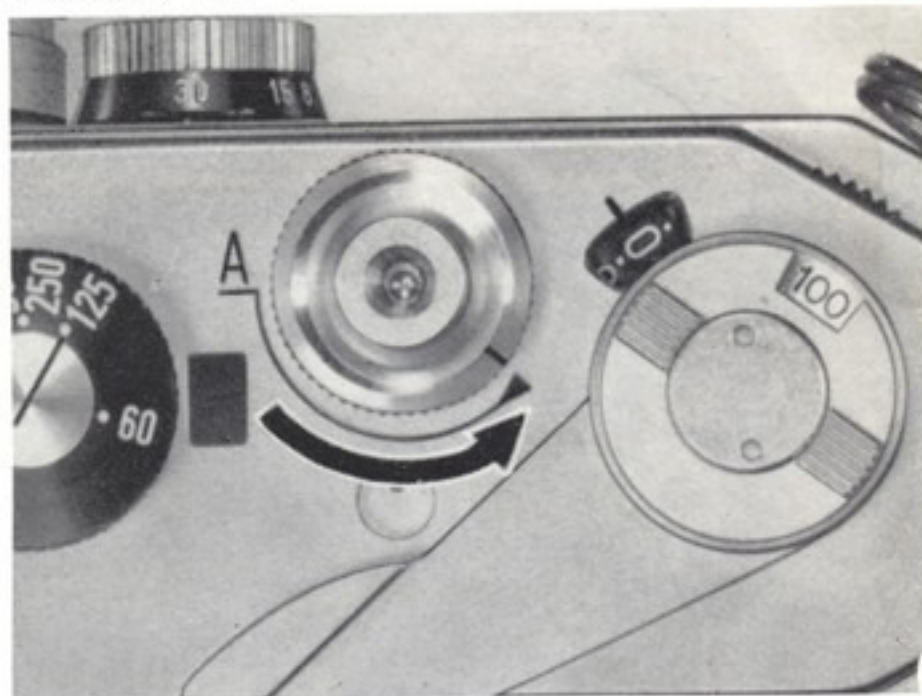
- フィルムをカメラに装填する場合には、直射日光下を避け、レンズキャップをかぶせたまま行うことが大切です。
- 太陽の直射光線がレンズを通過してカメラ内に入るのは禁物です。ウツカリするとレンズが太陽の像をシャッター幕面に結んで、これに焼孔を作ることがあります。撮影時以外はレンズには常にキャップをかぶせておいて下さい。

## フィルムの巻き戻し

フィルムが終りになると巻き上げに抵抗を感じますから、巻き上げを中止し、次の順序によってフィルムを元のカートリッジ(マガジン)に巻き戻します。

- フィルムが終りになっているのに、無理にその巻き上げをすると、巻き戻しができなくなって、暗室でフィルムの取り出しをしなければならなくなる事がありますから御注意下さい。

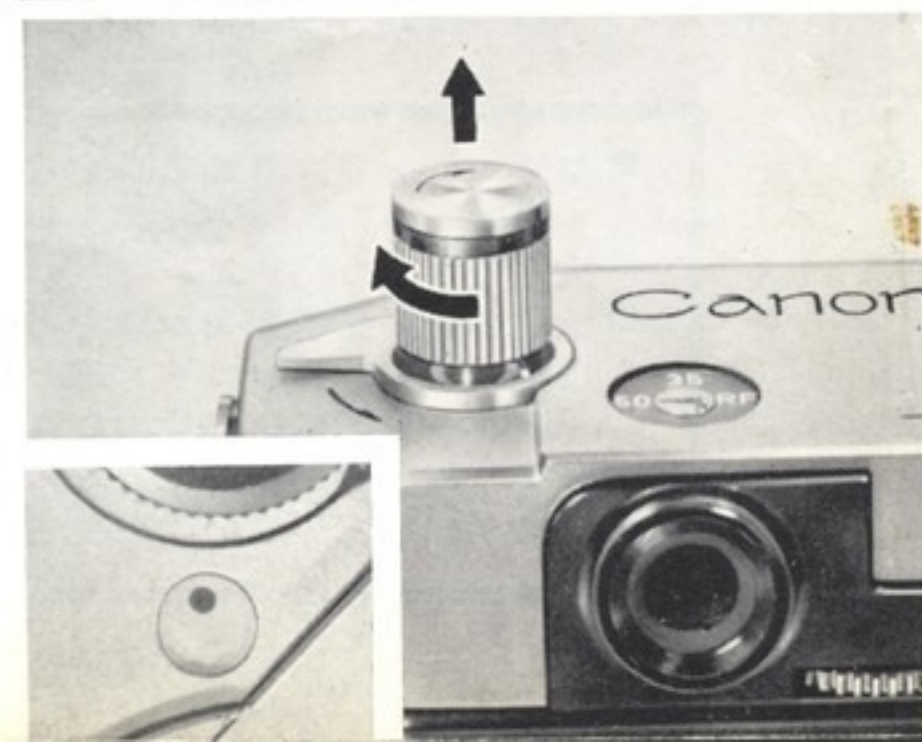
1. 巻き戻しリングをAと反対の方に回し。



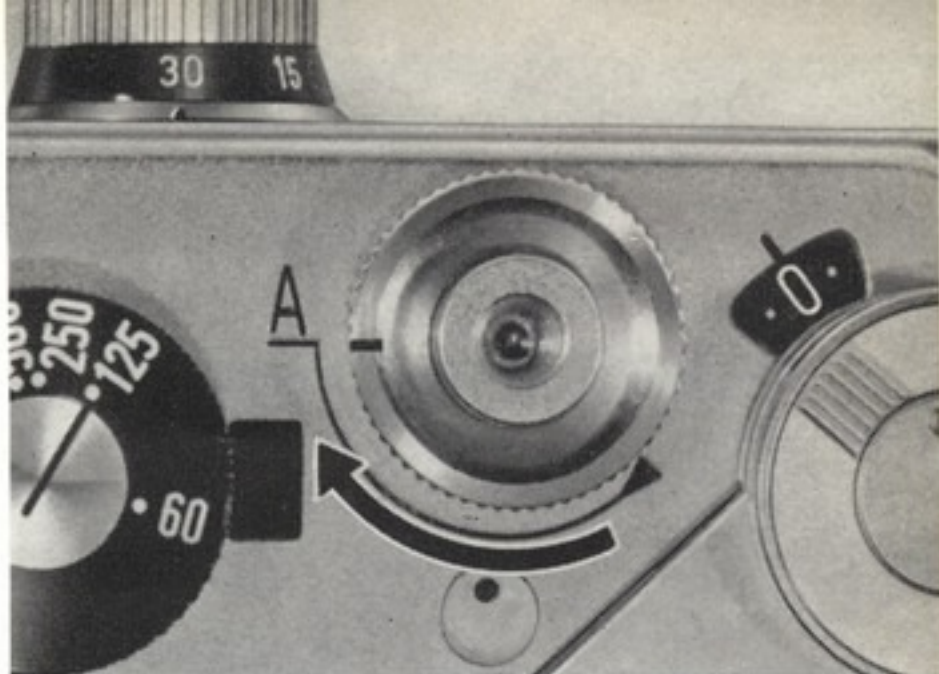
2. 巻き戻しノブの止めレバーを矢印の方向に動かして、巻き戻しノブを浮き上げさせます。



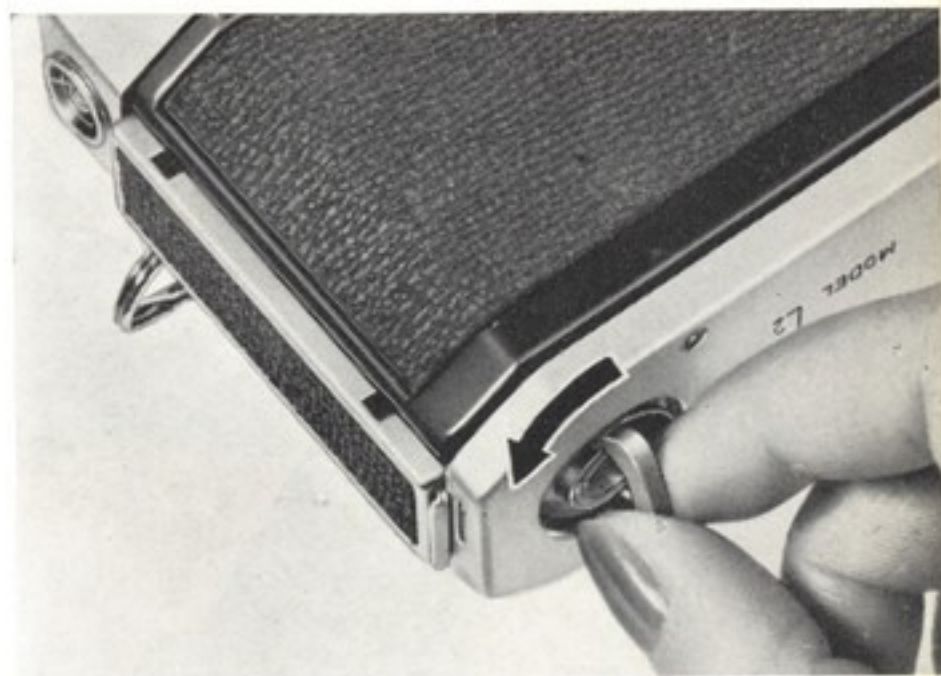
3. 巻き戻しノブを更に引き上げた後、矢印の方向に回します。
4. 巻き戻しノブの巻き戻し中、フィルム巻き戻し指標の赤点の動きに注意し、その円形運動が止ったならば直ぐ巻き戻し操作を中止します。



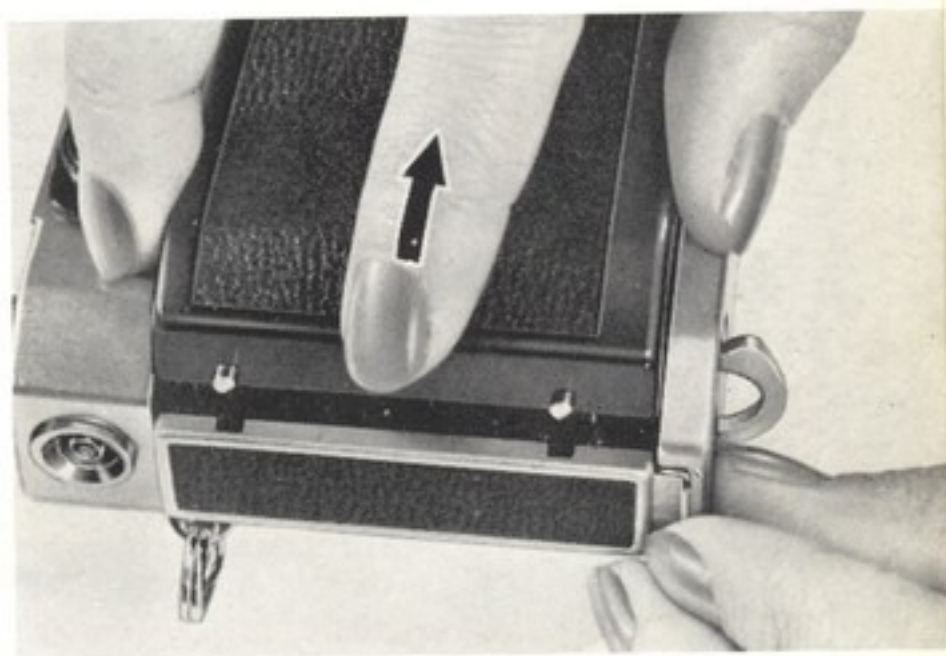
5. 巻き戻しリングをAにもどします。



6. マガジン開閉つまみを左回しに回した後

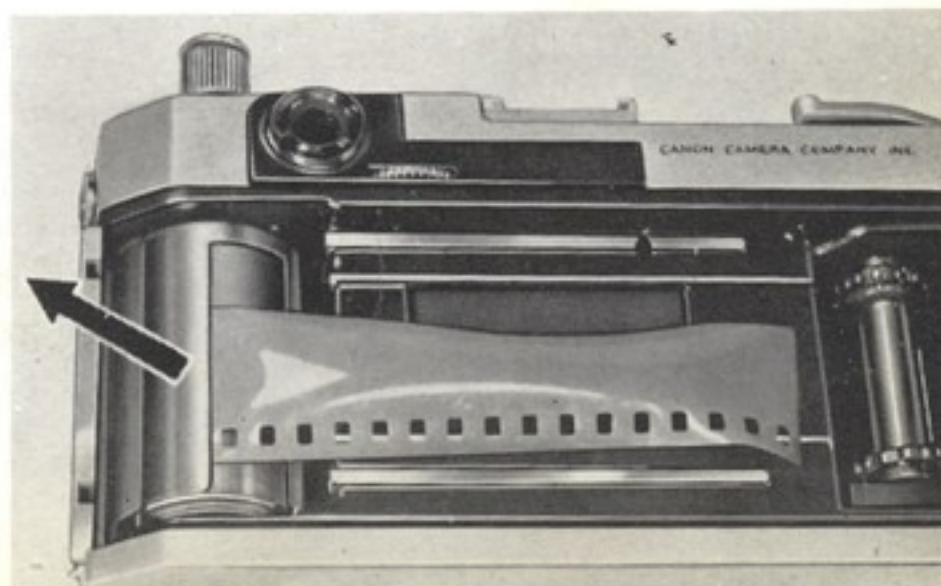


7. 裏蓋止め金を引いて裏蓋を開きます。



8. 巻き戻しノブを更に引き上げた後、カートリッジ(マガジン)をカメラから取り出します。

- 巻き戻しの際はレンズキャップをして下さい

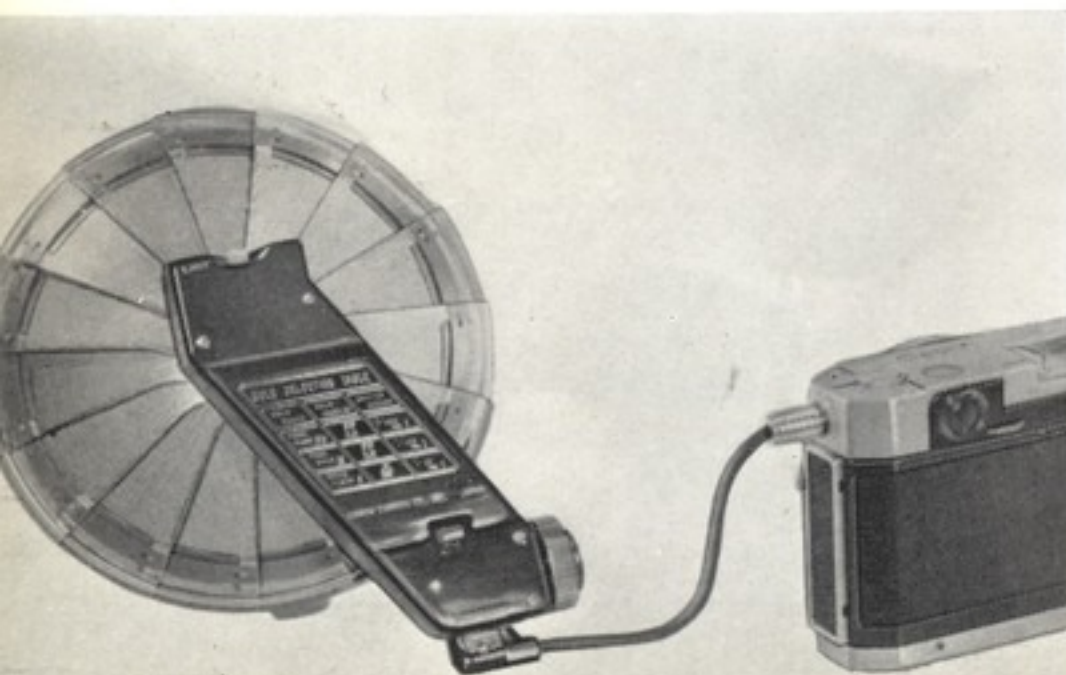


## フラッシュ同調

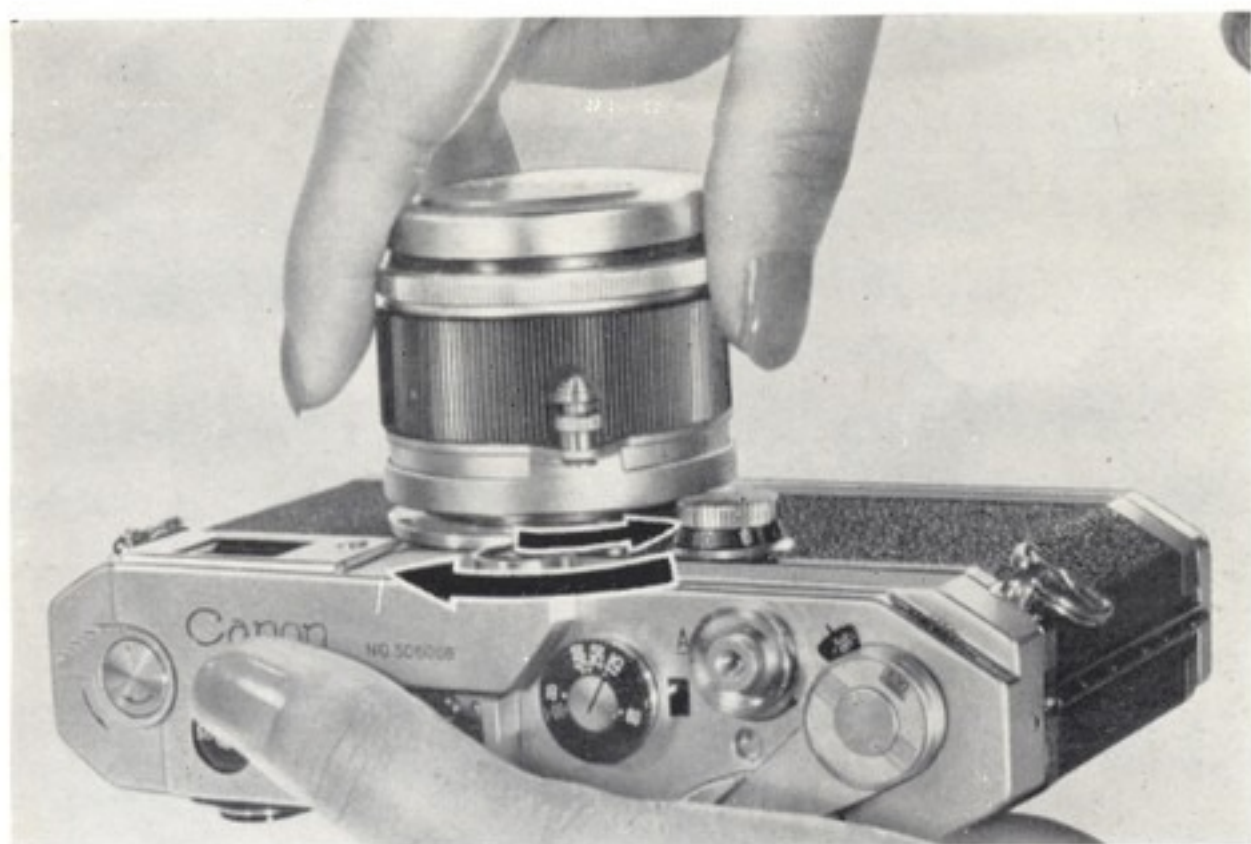
フラッシュユニット直結ソケットにキヤノンフラッシュユニットVを接続しておくこと、シャッターボタンを押した際、これに連動して閃光を発し、各シャッター速度でフラッシュ同調撮影をすることができます。

### 使用バルブ

バルブはFPタイプを用い1/500-1/60秒のシャッタースピードに同調します。







カメラからレンズを外すには、カメラを背部から平らに持ち、他方の手でレンズの基部をつかんで左回し（小矢印方向）に回します。

レンズを取り付けるには、レンズ底蓋を取り去った後カメラを前と同様に持ってレンズを静かにねじ込みます。ねじ込みの初め、特にレンズを左回しに僅かに回しますと、ねじが合いますから、あらためて右回し（大矢印方向）に回して十分止まるまでねじ込みます。レンズ交換の際、無限遠ストッパーはロックしたままで差し支えありませんが、長焦点及び望遠レンズではヘリコイドを伸び出させておく方が距離計のために良いことです。

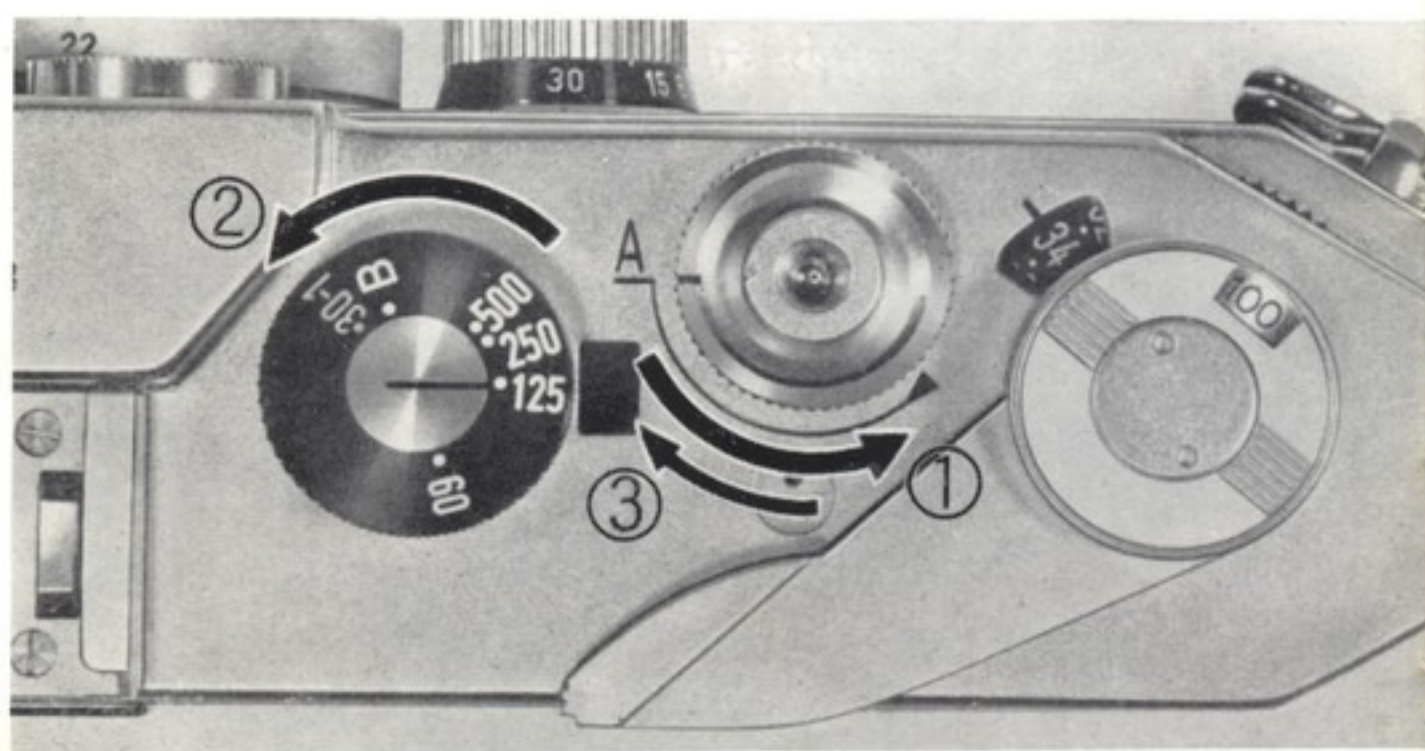
- レンズの交換をするときはカメラを強い光線に向けてはなりません。別のレンズを、すぐ取り付けられるように用意しておいて、なるべく光線の弱い場所、若しなれば自分の身体の陰などで、手早く交換取り付けを行います。

## 二重露出

先ず巻き戻しリングを巻き戻しの場合と同様にAと反対の方向に回し、次に高速シャッターダイヤルを左回転に止るまで回してもどらないように押えたまま、別の手で巻き戻しリングをAの位置にもどした後、高速ダイヤルから手を放します。こうするとフィルムを送らずにシャッターだけ巻き上げることができます。この方法を繰り返せば同一フィルム上に幾重露出でも与えることができます。

レンズキャップをかぶせたまま誤ってシャッターを切った場合も、この方法でシャッターの巻き上げをすれば、フィルムを無駄にしないで済みます。

高速ダイヤルを回す際は普通の調節の場合と違って、これを引き上げないように、押し付けぎみに回さなければなりません。



極寒地では、カメラは撮影時以外直接外気に触れさせないように保護し、また手速く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずにすみます。撮影に取り出す場合も徐々に外気に触れさせまないと、水分の凝結でレンズ面が曇り、撮影のできないことがあります。

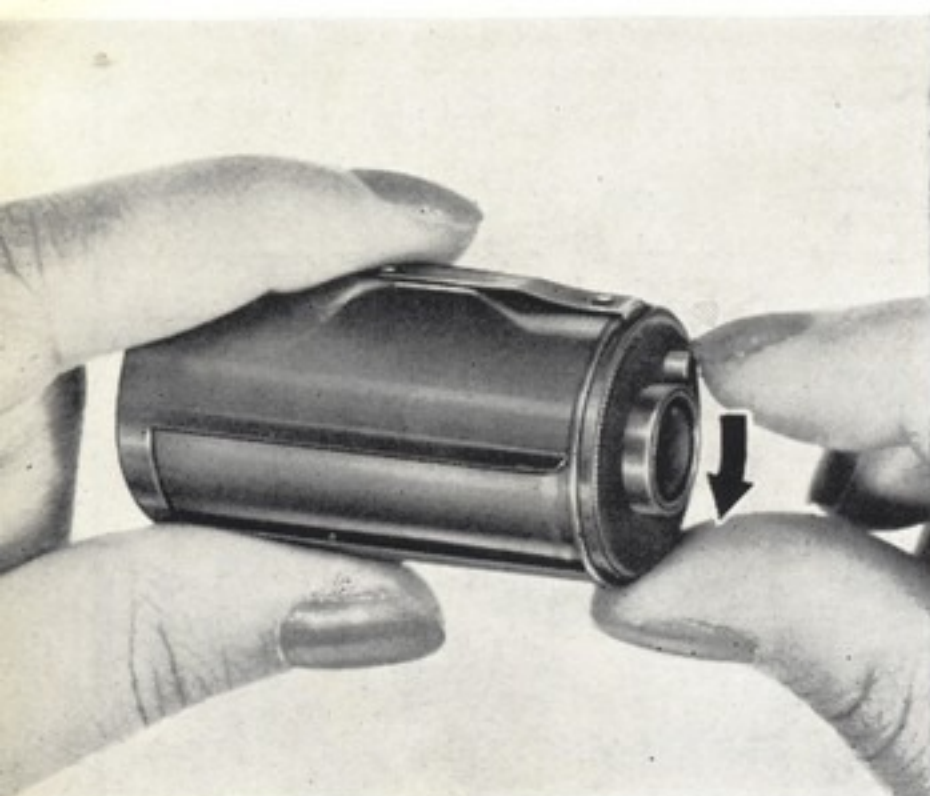
# 簡 易 露 出 表

被写体	季節	春	夏	秋	冬
	月	3, 4, 5	6, 7, 8	9, 10, 11	12, 1, 2
海, 山, 雪景 展開した風景	f: 16	f: 16	f: 16	f: 11	
	1/250	1/500	1/250	1/250	
普通風景	f: 11	f: 16	f: 11	f: 8	
	1/250	1/250	1/250	1/250	
明るい 街路スナップ	f: 8	f: 11	f: 8	f: 8	
	1/250	1/250	1/250	1/125	
戸外集合人物	f: 8	f: 8	f: 8	f: 5.6	
	1/125	1/250	1/125	1/125	
戸外人物大写	f: 5.6	f: 5.6	f: 5.6	f: 4	
	1/125	1/250	1/60	1/60	
日影人物	f: 4	f: 4	f: 4	f: 4	
	1/125	1/250	1/60	1/30	

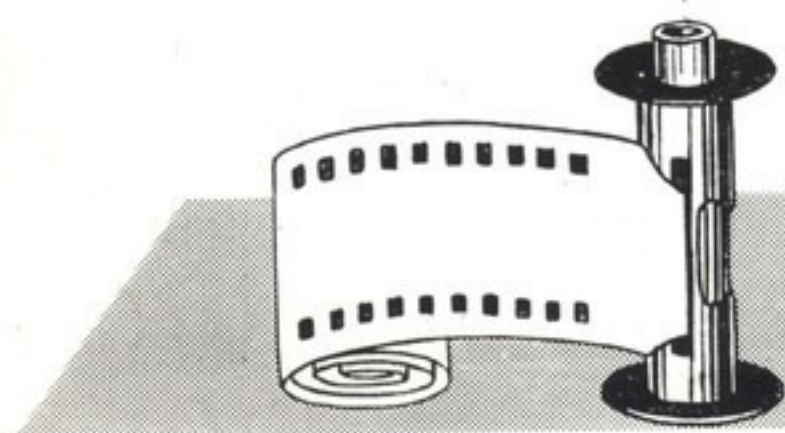
天 候	快 晴	薄 曇	普通曇	極 曇
	標 準	2 倍	3 倍	4 倍

時 刻	午前 10 時 ~午後 2 時	午前 9~10 時 午後 2~3 時	午前 8~9 時 午後 3~4 時
	標 準	2 倍	3 倍

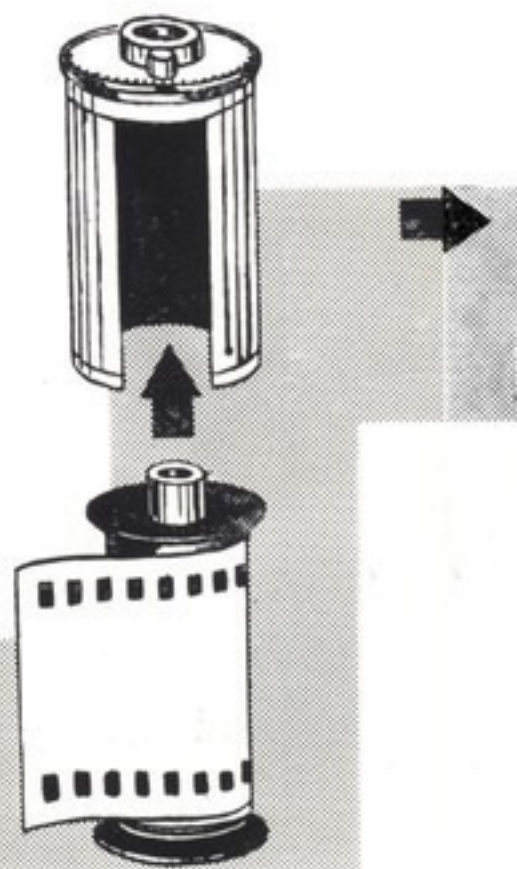
フ ィ ル ム	ASA 100 (富士ネオパン SS) (コニパン SS)	ASA 50 (ネオパン S) (コニパン S)
	標 準	2 倍



①



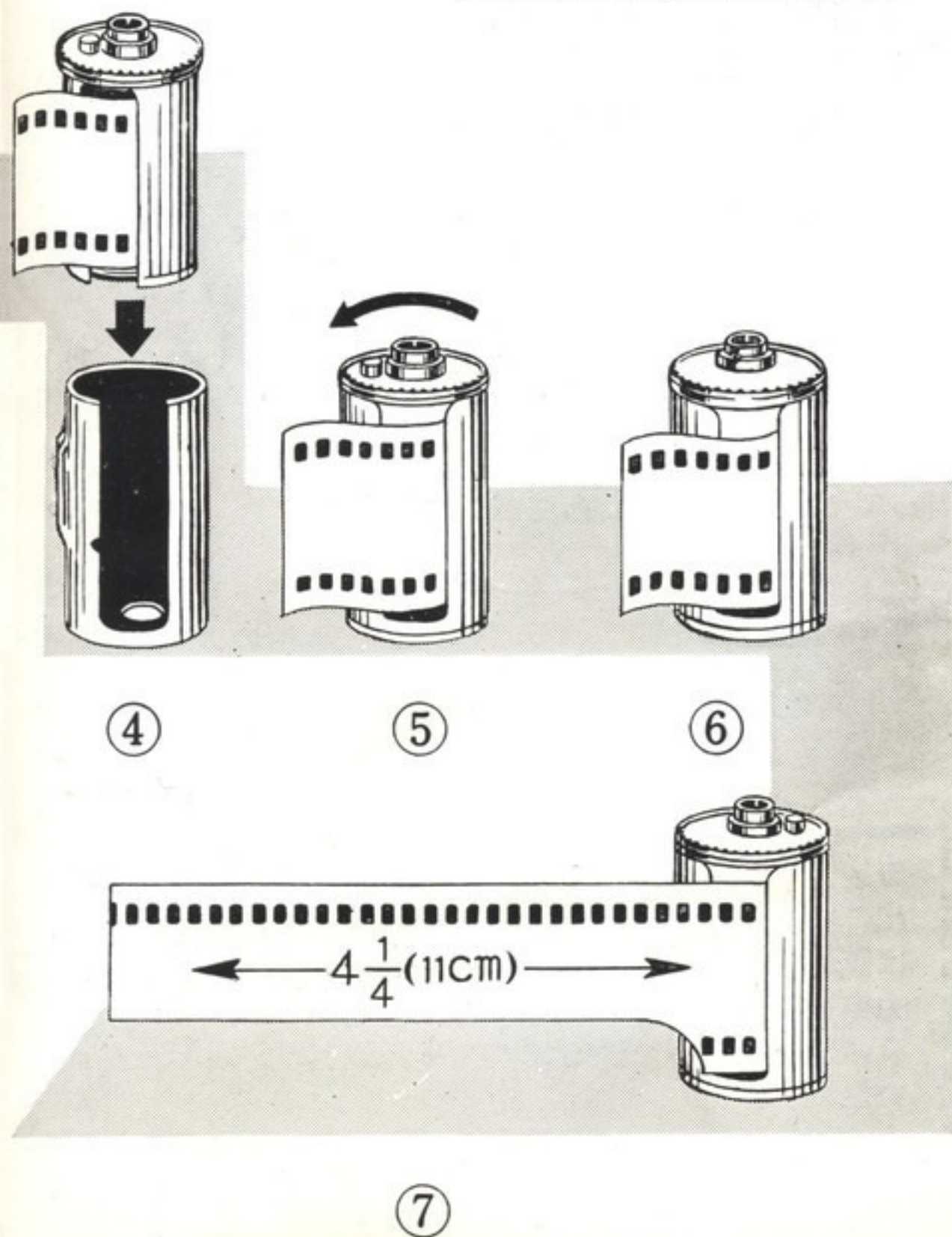
②



③

- フィルムの取り扱いには安全灯下か暗黒下で行わねばなりません。
- フィルムを入れたマガジンはカメラに装填する時以外は必ずマガジンケースに収めておいて下さい。
- スプールやマガジンが現像液や定着液などで汚されていると、フィルムにシミを生じたり、マガジンを錆させたりしますから、綺麗に拭いて使用することが大切です。

- ① 図のようにマガジンを持って突起を指で矢印の方向に押すとロックが外れて内筒が少し回ります。内筒と外筒との窓口が合ったとき内筒を引き出します。
- ② フィルムの乳剤面(巻癖の内側)を向うむきにして、先端をスプールの軸溝に差し込みます。軸溝は幅の広い方が入口です。フィルムは軸内の戻り止めの作用で戻らなくなる筈ですから、少し動かして確かめて下さい。
- ③ 乳剤面を内側にしてフィルムを巻き込み、これを内筒に取りめます。乳剤面に指先を触れてはなりません。またゆるく巻いて、後で強く巻きしめるとフィルムに傷がつきます。
- ④ 窓口を合せて内筒を外筒にはめ込みます。
- ⑤ 矢印の方向に内筒を回します。
- ⑥ パチンと音がして安全装置がかかります。
- ⑦ 長巻きフィルムのおときはフィルムの端を図のように切取ります。



カメラを保存するのに高温と湿気は禁物です。筒筒など密閉した中に長くおくのも感心しません。特に梅雨時などはなるべく乾いた外気に触れさせるのが望ましいことです。写真暗室や化学薬品の多い室におくのも宜しくありません。万全をはかるならば、罐とかデシケーター（乾燥器）とかにシリカゲルやアドソールなどの乾燥剤とともに入れておくのがよいことです。

**カメラの手入れ** 野外で使ったカメラは塵埃が付き易く、また雨の日や海浜で使ったときは、気付かないでも水滴や塩分を受け勝ちなので、放置するとシミや錆を生じ、またレンズの焼けや腐蝕の原因になります。このような際は、柔い刷毛で埃を払い、更に乾いた柔い布で丁寧に拭きます。油類は使用しない方が安全です。特にシャッター膜には油脂類は勿論、汗の指で触れるのも禁物です。

**レンズの手入れ** レンズにはなるべく手を触れないのが安全で、柔い刷毛か羽で軽く埃を払う程度に止めたいのですが、やむを得ないときは、洗い晒した柔い清潔な綿布を棒に細く巻き、先端に僅か湿る程度のアルコール（エーテルを少量まぜても可）を付け、レンズ面の中心より外側に、渦巻きを描くようにして軽く静かに拭きます。拭くそばからアルコールが乾いていく程度が良好です。強く拭いたり、埃の付いているままで拭くと、却ってキズを付けますから注意が大切です。

キヤノン L2 にはどのキヤノンレンズでも使用できますが 50 mm f: 3.5, 50 mm f: 1.9 のような沈胴式レンズを取り付けた場合は速写ケースに納めるときも常に鏡胴を引き出したままにしておいて下さい。

カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店に御相談下さい。店では僅かの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見に御協力申し上げることができます。

カメラやレンズの番号はいつでもわかるような御心づかいをおすすめ致します。



### ズームファインダー V

キヤノンズームファインダーは実像式のズームタイプである上に正像プリズムを持っていますから、倍率を自由に変化させ得るのみならず、像及び画面輪廓が極めて明確な特色を有し L2 ます。広角用と望遠用の兩種があり、キヤノンのレンジファインダーに連動して自動的にパララックス矯正が行われます。



### 広角ズームファインダー V

単独で 35 mm ~ 50 mm のレンズに用いられ別にアタッチメントを付加すると 21 mm ~ 28 mm レンズに用いられます。



### ズームファインダー用 広角アタッチメント

広角ズームファインダー V に付加して 21 mm ~ 28 mm レンズ用の視界を得ることができます。



### ルミフィールド ファインダー V

1 ブロックのアルバダ式で視野およびマスクが極めて明確です。倍率 1x、画面外も同時に見えますからスポーツ ファインダーにも好適です。

距離計連動パララックス矯正式

50 mm, 85 mm, 100 mm, 135 mm レンズ用各種



### スペシャル ファインダー V

広角の視野に適した専用ファインダーで、距離計連動パララックス矯正式です。

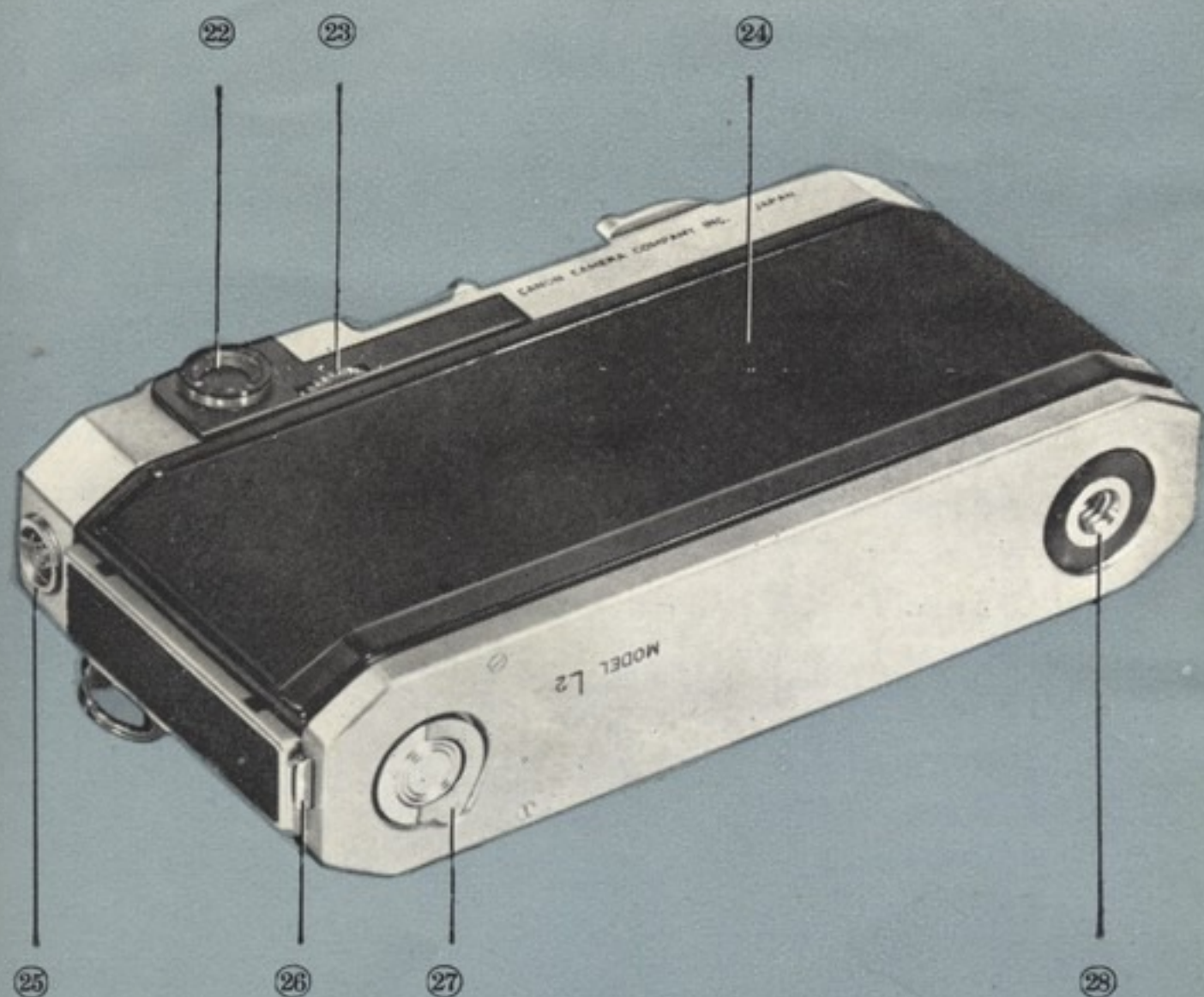
25 mm, 28 mm, 35 mm レンズ用各種



### サイドライティング ユニット V

フラッシュユニット V 及び III の増灯用、キャパシター内蔵式、小形のプラスチックケース内に折り畳み、引き起したケース蓋は握り柄或は支持台に兼用されます。

キヤノン L2 にはキヤノン VT のアクセサリが使用出来ます。



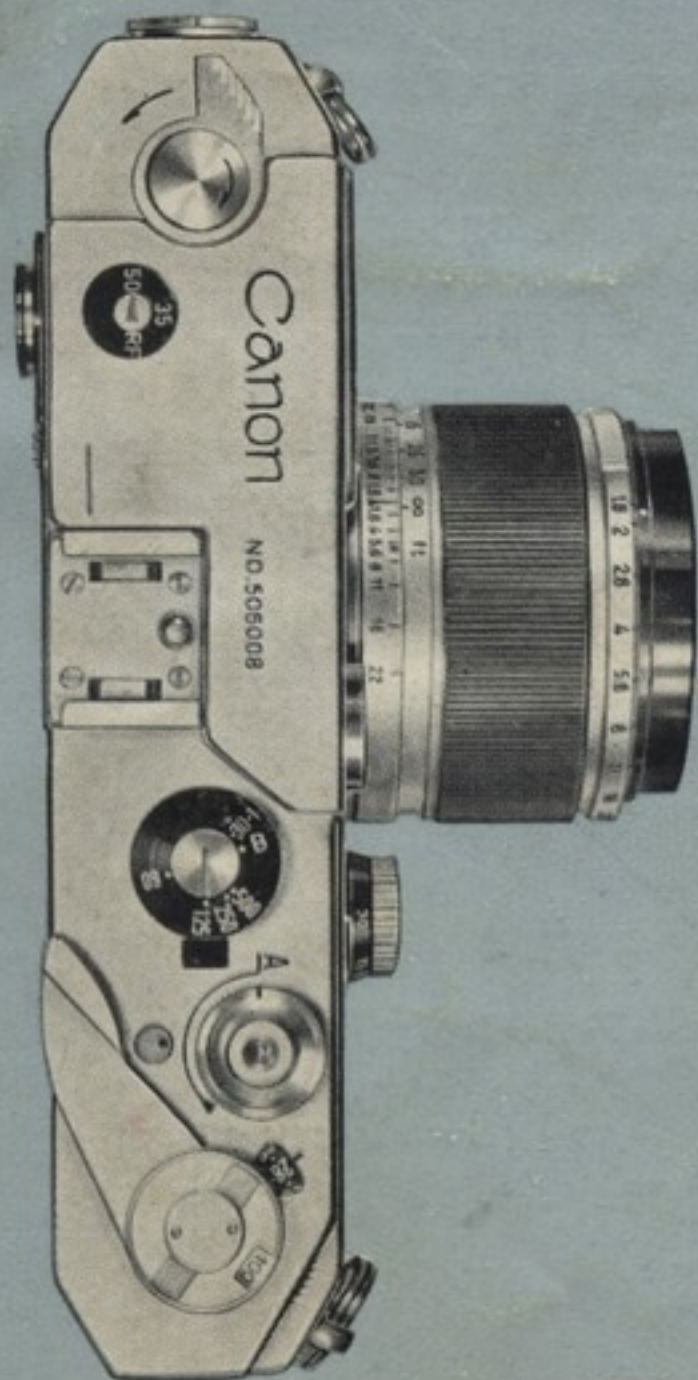
- ②② レンジ・ビューファインダー覗き窓…………… 9
- ②③ レンジ・ビューファインダー セレクター ……10
- ②④ 裏 蓋……………17
- ②⑤ フラッシュ ユニット 直結ソケット……………23
- ②⑥ 裏蓋止め金……………17
- ②⑦ マガジン開閉ツマミ……………17
- ②⑧ 三脚取り付けネジ孔



## キヤノンレンズ群

- 25 mm f : 3.5
- 28 mm f : 3.5 II
- 28 mm f : 2.8
- 35 mm f : 2.8 II
- 35 mm f : 1.8
- 50 mm f : 2.8
- 50 mm f : 1.8 II
- 50 mm f : 1.5
- 50 mm f : 1.2
- 85 mm f : 1.9
- 85 mm f : 1.5
- 100 mm f : 3.5
- 135 mm f : 3.5
- 200 mm f : 3.5
- 400 mm f : 4.5
- 800 mm f : 8





**Canon**

キヤノンカメラ株式会社

東京・大田区下丸子

No. 349 6T-2-57 Printed in Japan by Daito

2